

第Ⅳ部 EUにおける労働災害発生状況について

Ⅳ―1 労働災害発生状況の全体像について

Ⅳ―1―1 “Eurostat”について

“Eurostat”は、EU（欧州連合）の統計事務所で、ルクセンブルグに所在している。その使命は、ヨーロッパに関する高品質の主導的な統計の供給者としての役割を果たすことであり、その法的根拠としては、the Treaty establishing the European Community（ヨーロッパ共同体設立条約）に、とりわけその第 285 条第 1 項である。

これらの統計を作成するためには、Eurostat は、ヨーロッパ統計システム内の主要なパートナーである各国の統計事務所、社会保障機関（労働者災害補償機関又は同等の機関）及び EU 加盟各国の労働主務省と連携している。

1990 年以来、Eurostat は、欧州全域で職場における災害統計の統一性をもたらす調和計画に関して、欧州連合加盟国と作業してきた。加盟各国における産業の背景が異なっていることを考慮に入れて、Eurostat は、標準化された事故発生率をも公表している。

Ⅳ―1―2 労働安全衛生（労働災害）関係統計の概要

ヨーロッパでの職場における健康及び安全に関する統計は、労働災害統計、作業関連健康問題及びリスクファクターへのばく露に関するものとして、Eurostat では作成されており、EU 加盟国（2020 年 1 月 30 日現在では英国を含めて 28 カ国。同年 1 月 31 日に英国が EU を離脱したので、現時点（2020 年 10 月現在）では 27 カ国）全体及び個別の加盟国の労働災害発生状況は、加盟各国の報告に基づく Eurostat 中の“Population and social conditions”としてのウェブサイトに含まれている“Health(hlth)”にある“Health and safety at work(hsw)：掲載されているウェブサイトのアドレス：<https://ec.europa.eu/eurostat/data/database>。2022 年 6 月 13 日にこのアドレスには変更がないことを確認しました。）に集約されている。

（資料作成者注：この“Health and safety at work(hsw)”の統計へのアクセスの仕方、その使い方等については、本稿のⅣ―2 で別に説明します。）

現時点（2022 年 6 月現在）で公表されている Eurostat のウェブサイトで公表されている最新の包括的な統計は、Accidents at work (ESAW, 2008, onwards) (hsw_acc_work)である。

しかしながら、EU 加盟各国の労働災害統計（職場における労働災害及び健康問題に関するものを含む。）については、EU 加盟各国のフォーカルポイントと

してのウェブサイト(EU-OSHA のウェブサイト中に表示されている <https://osha.europa.eu/en/about-eu-osha/national-focal-points/focal-points-index>) を通じて、それぞれの国にアクセスする必要がある。

IV—2 Eurostat の使い方

(資料作成者注：以下の記述は、公益財団法人 産業医学振興財団発行の「産業医学レビュー、2020 年 5 月号の掲載論文「国際労働安全衛生統計の調べ方、見るべきポイント、参考になる情報ソース等について」(執筆者：唐沢 正義。この資料の作成者である。) から抜粋して引用している。)

IV—2—1 関連するウェブサイトのアドレスへのアクセス

Eurostat の健康及び安全に関する統計は、次のウェブサイトアドレスからアクセスすることができる。

- ① “Data Navigation tree” (<https://ec.europa.eu/eurostat/data/database>) のうちから、“Population and social conditions” を選び、次に Health(hlth)を選択する。
- ② 次に、Health and safety at work(hsw)を選択する。
- ③ 次に、Accidents at work (ESAW, 2008, onwards) (hsw_acc_work)を選択する。
- ④ 以下、次のデータベース (図 1) から求めるものを選択する。

Database	
Health and safety at work (hsw)	
Accidents at work (ESAW, 2008 onwards) (hsw_acc_work)	(訳者注：2008 年から現在まで。この項目をクリックして、次の Details by NACE Rev. 2 activity (2008 onwards) (hsw_n2)にアクセスするのが最も効果的であろう。)
Main indicators (hsw_mi)	
Details by NACE Rev. 2 activity (2008 onwards) (hsw_n2)	

Causes and circumstances of accidents at work (ESAW Phase III) (hsw_ph3)
Accidents at work (ESAW) – until 2007 (hsw_acc7_work)
Accidents at work and other work-related health problems (source LFS) (hsw_apex)
Work related health problems and accidental injuries – LFS 1999 (hsw_inj_pb)
Accidents at work and other work-related health problems (source LFS) (hsw_apex)
Work related health problems and accidental injuries – LFS 1999 (hsw_inj_pb)

図 1 Eurostat の健康及び安全に関する統計のデータベース一覧

IV—2—2 この Details by NACE Rev. 2 activity (2008 onwards) (hsw_n2)のさらに細分化された項目（いずれも Zip になっている。）にアクセスする方法

次の項目（図 2）に導かれるので、これらのうちの自分が関心のある項目を選択してクリックする。

Non-fatal accidents at work by NACE Rev. 2 activity and sex (hsw_n2_01)
Fatal Accidents at work by NACE Rev. 2 activity (hsw_n2_02)
Non-fatal accidents at work by NACE Rev. 2 activity and age (hsw_n2_03)
Accidents at work by days lost and NACE Rev. 2 activity (hsw_n2_04)
Accidents at work by NACE Rev. 2 activity and size of enterprise (hsw_n2_05)
Accidents at work by NACE Rev. 2 activity and part of body injured (hsw_n2_06)

図 2 Details by NACE Rev. 2 activity (2008 onwards) (hsw_n2)の細分化項目

（筆者注：上記（図 2）の英文の項目について、次のとおり英語原文、括弧書きにはその日本語訳を記載した。）

- Non-fatal accidents at work by NACE Rev. 2 activity and sex（欧州標準産業分類改訂第 2 版（これは国際連合の国際標準産業分類改訂第 4 版を踏まえた EU の標準産業分類改訂第 2 版である。以下同じ。）の産業別（以下単に「産業別」という。）及び性別の職場での非致命的災害（休業 4 暦日以上のものが対象であって、通勤災害は含まれない。また、公務部門及び道路交通を含む労働の過程での移動中における労働災害を含む。以下同じ。）
- Fatal Accidents at work by NACE Rev. 2 activity（産業別の職場での死亡災害（通勤災害を除き、公務部門及び道路交通を含む労働の過程での移動中における労働災害を含む。以下同じ。）
- Non-fatal accidents at work by NACE Rev. 2 activity and age（産業別及び年齢別の職場での非致命的災害）
- Accidents at work by days lost and NACE Rev. 2 activity（産業別の職場での災害による労働損失日数）
- Accidents at work by NACE Rev. 2 activity and size of enterprise（産業別及び企業の規模別の職場での災害）
- Accidents at work by NACE Rev. 2 activity and part of body injured（産業別及び傷害を受けた部位別の職場での災害）出典
- Accidents at work by NACE Rev. 2 activity and type of injury（産業別及び傷害の型別の職場での災害）

なお、European statistics on accidents at work (ESAW) では、急性の中毒以外の業務上疾病に関する統計は、見当たらない。このことは、European Statistics on Accidents at Work(ESAW) Summary methodology 2013 edition(筆者注：現在でも有効なものである。)の Annex1: Classification, Type of Injury において、次の図 3 のとおり示されているように、事実上は、ほぼ急性の中毒やこれらに類する injury に限定されていると考えられる。

070	Poisonings and infections
071	Acute poisonings
072	Acute infections
079	Other types of poisonings and infections
090	Effects of sound, vibration and pressure
091	Acute hearing losses
092	Effects of pressure (barotrauma)
099	Other effects of sound, vibration and pressure
100	Effects of temperature extremes, light and radiation
101	Heat and sunstroke
102	Effects of radiation (non-thermal)
103	Effects of reduced temperature
109	Other effects of temperature extremes, light and radiation

図3 傷害のクラス分けとタイプ 出典：European Statistics on Accidents at Work(ESAW) Summary methodology 2013 edition

IV—2—3 EUROSTAT データベースの項目をさらに絞り込む方法

次の項目をさらにクリックして、update をクリックすれば、求めているデータをダウンロードできるウェブサイトへ導かれる。

- TIME (対象年)
- Classification of economic activities NACE Rev.4 (経済活動別分類、産業別)
- Geo (地理的分類—地域又は国別のコード)
- Unit of measure (計量の単位)

－Number (件数又は人数)

－Incidence rate (労働者 10 万人当たりの発生件数 (人数))

なお、このデータベースがダウンロードされてパソコン上に表示される画像をこの原稿上に再現することは難しいので、実際に自らアクセスされることをお勧めする。

IV—2—4 2020 年 1 月末日の英国の EU 離脱の Eurostat への影響

英国は、2020 年 1 月 31 日限りで EU を離脱したので、Eurostat の事務局は関連するウェブサイト (<https://ec.europa.eu/eurostat/help/faq/brexit> 2022 年 6 月 13 日にこのアドレスには変更がないことを確認しました。) で今後における英国に関する統計の取扱いを次のとおりとすることを公表している。

英国のデータ

2020 年末までの移行期間では、英国は引き続き Eurostat にデータを送付し続けるので、これらの英国のデータは Eurostat のデータベースに収載され、利用者は利用可能である。

出版物においては、Eurostat は、今後英国のデータを提供するが、EU 加盟 27 か国から分離したものとして取り扱う。

IV—2—5 Eurostat の著作権について

次の Eurostat のウェブサイトに記載されているとおり、他に言及されていない限り、出典が明記されていれば、認められる。原文の再生又は使用及びマルチメディア情報のために優先的な許可が取得されなければならない場合には、上記の一般原則は取り消され、使用に関しての制限が明確に示されなければならない、とされている。

http://ec.europa.eu/eurostat/statistics-explained/index.php/Statistics_Explained:General_disclaimer 2022 年 6 月 13 日にこのアドレス

及び内容には変更がないことを確認しました。

Copyright Notice

© European Union, 1995-2013

Reproduction is authorised, provided the source is acknowledged, save where otherwise stated. Where prior permission must be obtained for the reproduction or use of textual and multimedia information (sound, images, software, etc.), such permission shall cancel the above-mentioned general permission and shall clearly indicate any restrictions on use.

そこで、本稿においては、以下に、上記の“**Accidents at work statistics**”のうち、主要な統計である Table1(表 1)及び Figure1~6（図 1~6. これらに関連する統計数字が掲載されている表を含む。）を抜粋し、引用して紹介することにする。

なお、EUOSTAT の健康分野の統計としては、“Health statistics introduced、ウェブサイト：

http://ec.europa.eu/eurostat/statistics-explained/index.php/Health_statistics_introduced（2022 年 6 月 13 日にこのアドレスには変更がないことを確認しました。）があるが、その内容は、公衆衛生が主体となっているので、本稿では取り上げないこととした。

IV-3-1 Eurostat hsw の 2019 年を中心とする労働災害統計（説明付き）の「英語原文—日本語仮訳」

[原典の名称]: Accidents at work statistics, Euostat （職場での労働災害統計、欧州統計局、2019 年データ）

[データ抽出年月]: Data extracted in January （2022 年 1 月）

[次回更新予定（Planned update: November 2022.）]:2022 年 11 月

[原典の所在]: https://ec.europa.eu/eurostat/statistics-explained/index.php?title=Accidents_at_work_statistics

[この資料の公表日]:2022 年 2 月 24 日

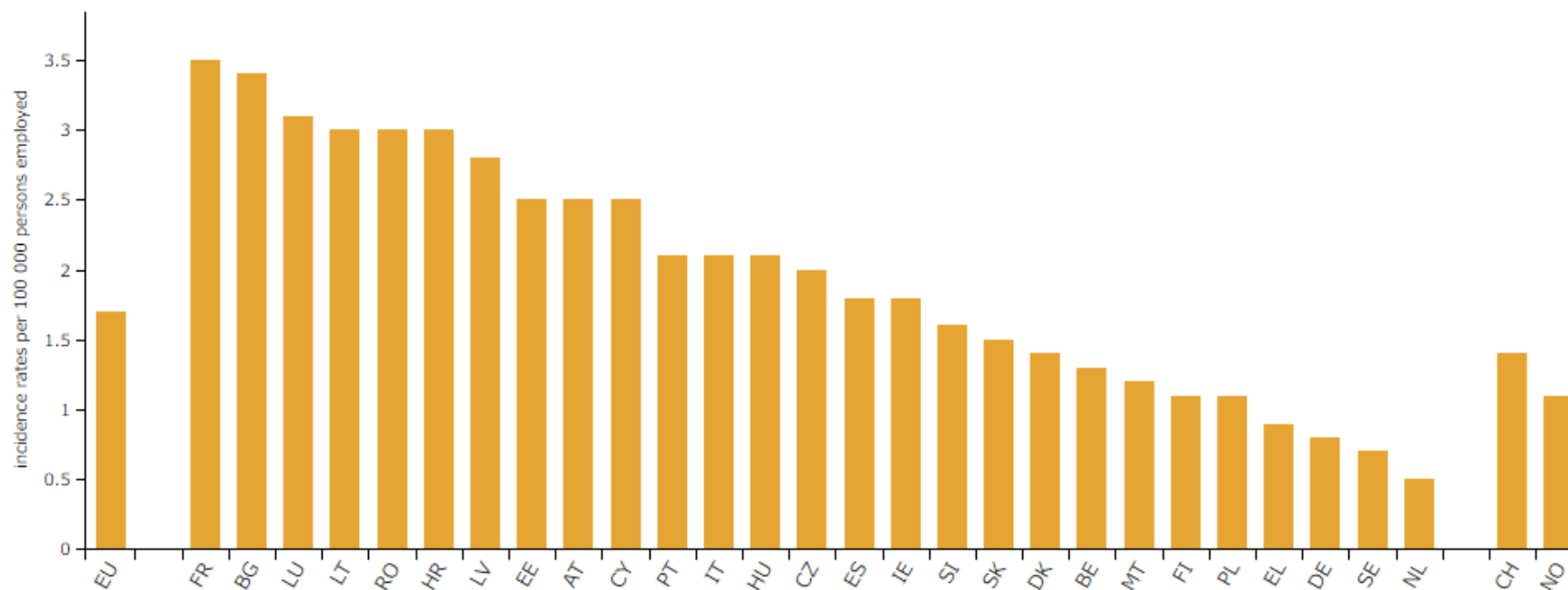
[ダウンロード日時]:2022 年 6 月 9 日及び 13 日ダウンロード

<p>This article presents a set of main statistical findings in relation to indicators concerning non-fatal and fatal accidents at work in the European Union (EU); the statistics presented have been collected within the framework of the European statistics on accidents at work (ESAW) administrative data collection exercise.</p> <p>An accident at work is defined in ESAW methodology as a discrete occurrence during the course of work which leads to physical or mental harm. Fatal accidents at work are those that lead to the death of the victim within one year of the accident taking place. Non-fatal accidents at work are defined as those that result at least four full calendar days of absence from work (they are sometimes also called ‘serious accidents at work’). Non-fatal accidents at work may result in a considerable number of</p>	<p>本稿は、欧州連合（EU）における非致死性及び致死性の労働災害に関する指標に関連する一連の主要な統計所見を提示しています。提示された統計は、欧州労働災害統計（ESAW）の管理データ収集の枠組みの中で収集されたものです。</p> <p>ESAW の手法では、労働災害は身体的又は精神的な損害につながる業務中の個別の出来事と定義されています。死亡事故は、事故発生から 1 年以内に被害者が死亡する事故です。</p> <p>非致死的な労働災害は、少なくとも 4 暦日以上欠勤につながるものと定義されています（「重大労働災害」とも呼ばれます）。</p> <p>非致死的な労働災害は、かなりの労働日数が失われる可能性があり、関係す</p>
--	--

working days being lost and often involve considerable harm for the workers concerned and their families. They have the potential to force people, for example, to live with a permanent disability, to leave the labour market, or to change job.	る労働者及びその家族に大きな損害を与えることがよくあります。例えば、永久的な障害との共存や、労働市場からの撤退、転職を余儀なくされる可能性があります。
--	---

Highlights	ハイライト
<p>There were 3 408 fatal accidents at work in the EU during 2019, an increase of 76 deaths compared with the year before.</p> <p>Tweet</p> <p>In 2019, more than a fifth of all fatal accidents at work in the EU took place within the construction sector.</p> <p>Tweet</p> <p>In 2019, almost three quarters of all accidents at work in the EU concerned: wounds and superficial injuries; dislocations sprains and strains; or concussions and internal injuries.</p>	<p>2019 年中の EU における労働災害死亡事故は 3408 件で、前年比 76 件増。</p> <p>ツイート</p> <p>2019 年、EU における労働災害死亡事故の 5 分の 1 以上が建設業内で発生しました。</p> <p>ツイート</p> <p>2019 年、EU における労働災害のほぼ 4 分の 3 は、傷害及び表層での損傷、脱臼及び捻挫又は脳震盪及び体内内部の損傷に関するものでした。</p>

Fatal accidents at work, 2019



Source: Eurostat (online data code: hsw_n2_02)

Fatal accidents at work, 2019(職場における死亡災害、2019 年)

(資料作成者注：上記の棒グラフにおける国名の略称 (code) は、次のとおりです。ただし、国名の英語名の日本語への翻訳は、省略しました。)

資料出所：https://ec.europa.eu/eurostat/statistics-explained/index.php?title=Glossary:Country_codes

European Union (EU) (欧州連合)

国名(英語名)	略称	国名(英語名)	略称	国名(英語名)	略称	国名(英語名)	略称
Belgium	(BE)	Greece	(EL)	Lithuania	(LT)	Portugal	(PT)
Bulgaria	(BG)	Spain	(ES)	Luxembourg	(LU)	Romania	(RO)
Czechia	(CZ)	France	(FR)	Hungary	(HU)	Slovenia	(SI)
Denmark	(DK)	Croatia	(HR)	Malta	(MT)	Slovakia	(SK)
Germany	(DE)	Italy	(IT)	Netherlands	(NL)	Finland	(FI)
Estonia	(EE)	Cyprus	(CY)	Austria	(AT)	Sweden	(SE)
Ireland	(IE)	Latvia	(LV)	Poland	(PL)		

European Free Trade Association (EFTA) (欧州自由貿易連合)

国名(英語名)	略称	国名(英語名)	略称
Iceland	(IS)	Norway	(NO)
Liechtenstein	(LI)	Switzerland	(CH)

United Kingdom (連合王国：英国)

United Kingdom	(UK)
----------------	------

原典の英語原文	左欄の日本語仮訳
<p>Number of accidents</p> <p>In 2019, there were 3.1 million non-fatal accidents that resulted in at least four calendar days of absence from work and 3 408 fatal accidents in the EU (see Table 1), a ratio of approximately 920 non-fatal accidents for every fatal accident. There was an increase between 2018 and 2019 in the total number of non-fatal accidents at work in the EU, some 16 122 more (equivalent to growth of 0.5 %). There were an additional 76 fatal accidents at work in the EU during 2019 when compared with the year before (equivalent to an increase of 2.3 %).</p> <p>Men were considerably more likely than women to have an accident at work. In 2019, more than two out of every three (68.3 %) non-fatal accidents at work in the EU involved men. Factors that influence these statistics are: the proportion of men and women who are in employment; the different types of work that men and women carry out; the activities in which they work; and the amount of time spent at work. For example, there are far more accidents in the mining, manufacturing or construction sectors, which tend to be male-dominated. It is also generally the case that men tend to work on a full-time basis, whereas women are more likely to work on a part-time basis; as such, with</p>	<p>労働災害発生件数</p> <p>2019 年、EU では、少なくとも 4 暦日の休業に至った非致死的事故が 310 万件、致死的事故が 3408 件あり（表 1 参照）、致死的事故 1 件に対して非致死の事故が約 920 件の割合となりました。</p> <p>2018 年から 2019 年にかけて、EU における仕事上の非致死の事故の総件数は約 16 122 件増加しました（0.5%の増加に相当）。前年と比較した場合、2019 年中の EU における業務上の死亡事故は 76 件追加されました（2.3%の増加に相当）。</p> <p>男性は女性に比べて、仕事上の事故に遭う確率がかかなり高い。2019 年に、EU における仕事上の非致死の事故の 3 件に 2 件以上（68.3%）が男性に係るものでした。これらの統計に影響を与える要因としては、就業している男女の割合、男女が行う仕事の種類の違い、働く活動内容、職場で過ごす時間等が挙げられます。</p> <p>例えば、男性が多い傾向にある鉱業、製造業又は建設業では、労働災害が圧倒的に多くなっています。</p> <p>また、一般的に男性はフルタイムで働く傾向があり、女性はパートタイムで働く傾向があります。そのため、女性が職場で過ごす時間（平均）は短く、これも労働災害に遭う可能性を低くしているかもしれません。</p>

women spending a shorter period of time (on average) in the workplace this may also reduce their chances of having an accident.	
--	--

(表 1：非致命的及び致命的な職場での災害件数。2019 年、国別、地域別、合計、男女別。この場合、非致命的な職場での災害とは、休業日数が少なくとも 4 暦日以上のものである。以下同じ。)

Number of non-fatal and fatal accidents at work, 2019
(persons)

	Non-fatal accidents at work involving at least four calendar days of absence from work			Fatal accidents at work
	Total	Men	Women	Total
EU	3 140 950	2 143 816	996 325	3 408
Belgium	68 741	47 504	21 232	52
Bulgaria	2 162	1 427	735	85
Czechia	42 321	28 479	13 842	95
Denmark	50 179	30 307	19 681	39
Germany	867 533	639 740	227 386	416
Estonia	6 180	4 764	1 416	15
Ireland	13 252	8 199	4 933	41
Greece	5 127	3 668	1 459	35
Spain	489 643	350 265	139 378	347
France	778 820	468 797	310 023	803
Croatia	10 373	6 439	3 930	43
Italy	289 283	211 093	78 190	491
Cyprus	2 158	1 537	621	10
Latvia	2 245	1 473	772	29
Lithuania	4 666	2 850	1 733	37
Luxembourg	7 270	5 593	1 677	12
Hungary	23 802	14 848	8 954	84
Malta	2 202	1 741	461	3
Netherlands	92 838	58 948	33 890	37
Austria	60 909	47 466	13 443	106
Poland	81 302	50 358	30 944	184
Portugal	131 717	89 538	42 179	104
Romania	4 709	3 287	1 422	227
Slovenia	13 065	9 683	3 382	15
Slovakia	9 666	6 297	3 369	33
Finland	40 103	26 578	13 525	29
Sweden	40 684	22 936	17 748	36
Norway	9 943	5 844	4 100	33
Switzerland	95 254	74 382	20 872	56

Note: non-fatal accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work (serious accidents).

Source: Eurostat (online data codes: hsw_n2_01 and hsw_n2_02)

eurostat 

Table 1: Number of non-fatal and fatal accidents at work, 2019(表 1：職場での非致命的及び致命的な災害の件数)

(persons) (人数)

Source: Eurostat ([hsw_n2_01](#)) and ([hsw_n2_02](#)) (資料出所：欧州統計局)

(資料作成者注：EU加盟 28 カ国 (2020 年 2 月 1 日以降は、英国の離脱に伴い 27 か国) の国名は、次のとおりです。以下、国名の日本語訳は省略します。)

Belgium	ベルギー
Bulgaria	ブルガリア
Czechia	チェコ
Denmark	デンマーク
Germany	ドイツ
Estonia	エストニア
Ireland	アイルランド
Greece	ギリシャ
Spain	スペイン
France	フランス
Croatia	クロアチア
Italy	イタリア
Cyprus	キプロス
Latvia	ラトビア
Lithuania	リトアニア
Luxembourg	ルクセンブルク
Hungary	ハンガリー

Malta	マルタ
Netherlands	オランダ
Austria	オーストリア
Poland	ポーランド
Portugal	ポルトガル
Romania	ルーマニア
Slovenia	スロベニア
Slovakia	スロバキア
Finland	フィンランド
Sweden	スウェーデン
United Kingdom	イギリス
Norway	ノルウェー（域外国）
Switzerland	スイス（域外国）

Incidence rates	発生率
<p>An alternative way to analyse the information on accidents at work is to express the number of accidents in relation to the number of persons employed; this produces a ratio referred to as the incidence rate. In Figures 1 and 2, simple incidence rates are shown relating the number of accidents to the overall number of persons employed. For any given country, these statistics give an indication of the likelihood that someone had an accident.</p>	<p>労働災害の情報を分析する方法として、被雇用者数に対する災害発生件数を表す方法があり、これを「発生率」と呼んでいます。図 1 及び図 2 には、被雇用者数に対する事故発生件数の比率が示されています。これらの統計は、どの国についても事故が発生する可能性を示しています。</p>
<p>In 2019, the number of fatal accidents per 100 000 employed persons ranged from less than 1.00 in Greece, Germany, Sweden and the Netherlands, to 3.00 or more fatal accidents per 100 000 persons employed in Romania, Lithuania, Luxembourg, Bulgaria and France (see Figure 1). The highest incidence rates among the EU Member States were recorded in Bulgaria and France, with 3.37 and 3.53 fatal accidents per 100 000 persons employed respectively.</p>	<p>2019 年には、被雇用者 10 万人当たりの死亡事故件数は、ギリシャ、ドイツ、スウェーデン、オランダの 1.00 未満から、ルーマニア、リトアニア、ルクセンブルグ、ブルガリア、フランスの被雇用者 10 万人当たりの 3.00 以上まで幅がありました（図 1 参照）。EU 加盟国の中で最も発生率が高かったのはブルガリア及びフランスで、それぞれ被雇用者 10 万人当たり 3.37 件、3.53 件の死亡事故が発生しています。</p>
<p>Across the whole of the EU, there were 1.74 fatal accidents per 100 000 persons employed in 2019. As such, fatal accidents at work were therefore relatively rare events and so fatal accidents</p>	<p>EU 全体では、2019 年の被雇用者 10 万人当たりの死亡事故は 1.74 件でした。このように、職場での死亡事故は比較的まれな出来事であったため、死亡事故（及びその発生率）は年によって大きく異なる可能性があります。</p>

<p>(and their incidence rates) can vary greatly from one year to the next.</p>	
<p>Across the EU, there were 1 603 non-fatal accidents per 100 000 persons employed in 2019. The range for incidence rates among the EU Member States was from less than 100 non-fatal accidents per 100 000 persons employed in Romania and Bulgaria to more than 2 500 per 100 000 persons employed in Portugal and Spain, while a considerably higher rate was recorded in France (3,425 non-fatal accidents per 100 000 persons employed) - see Figure 2. Particularly low incidence rates for non-fatal accidents may reflect an under-reporting problem linked to: poorly-established reporting systems, little financial incentive for victims to report, non-binding legal obligations for the employers, and so on. In the same way, well-established reporting/recognition systems may often explain the high incidence rate in some countries. While the phenomenon of low non-fatal incidence rates can in part be considered to reflect under-reporting the situation for incidence rates of fatal accidents is different as it is much more difficult to avoid reporting a fatal accident.</p>	<p>EU 全体では、2019 年に被雇用者 10 万人当たり 1 603 件の非致命的災害が発生しました。EU 加盟国間の発生率の範囲は、ルーマニアとブルガリアの被雇用者 10 万人当たり 100 件未満から、ポルトガルとスペインの被雇用者 10 万人当たり 2500 件以上までであり、フランスではかなり高い発生率（被雇用者 10 万人当たり 3 425 件の非致命的事故）を記録しました（図 2 参照）。</p> <p>非致死性事故の発生率が特に低いのは、報告制度が十分に確立されていない、被害者が報告する金銭的動機が少ない、使用者に法的拘束力がない、等に関連した報告不足の問題を反映していると思われます。</p> <p>同様に、確立された報告・認識制度が、ある国における高い発生率を説明することもあります。</p> <p>死亡災害以外の発生率が低いという現象は、報告不足を反映していると考えられますが、死亡災害の発生率については、死亡災害の報告を避けることがはるかに困難であるため、状況は異なります。</p>

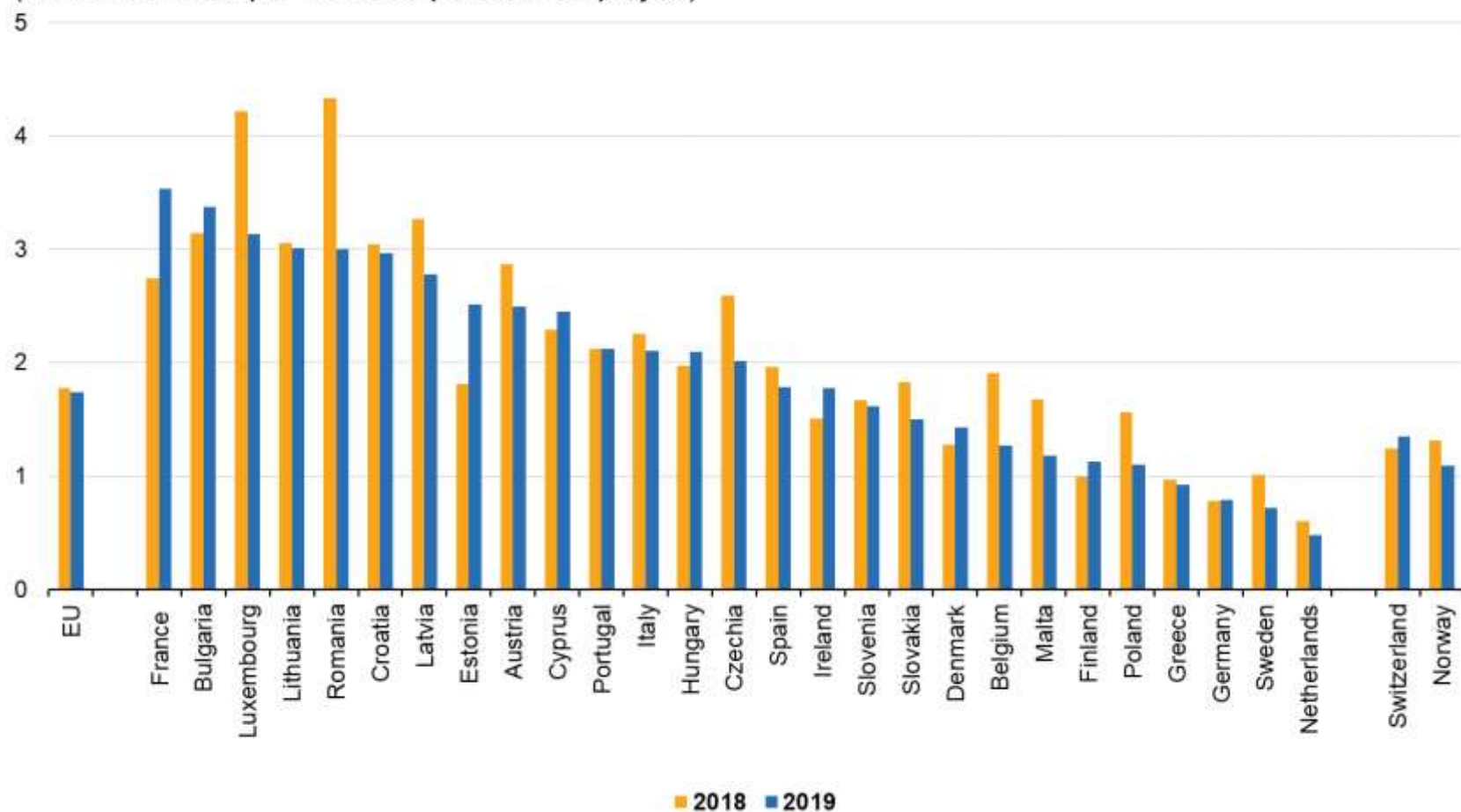
Figure 1: Fatal accidents at work, 2018 and 2019 (図 1 : 職場での死亡災害、2018 年及び 2019 年)

(incidence rates per 100 000 persons employed) (被雇用労働者 10 万人当たりの発生率)

Source: Eurostat ([hsw_n2_02](#)) (資料出所: 欧州統計局)

Fatal accidents at work, 2018 and 2019

(incidence rates per 100 000 persons employed)



Source: Eurostat (online data code: [hsw_n2_02](#))

eurostat

(実際のデータ :

https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fec.europa.eu%2Feurostat%2Fstatistics-explained%2Fimages%2F%2Fe7%2FAccidents_at_work_AAW2022.xlsx&wdOrigin=BROWSELINK)

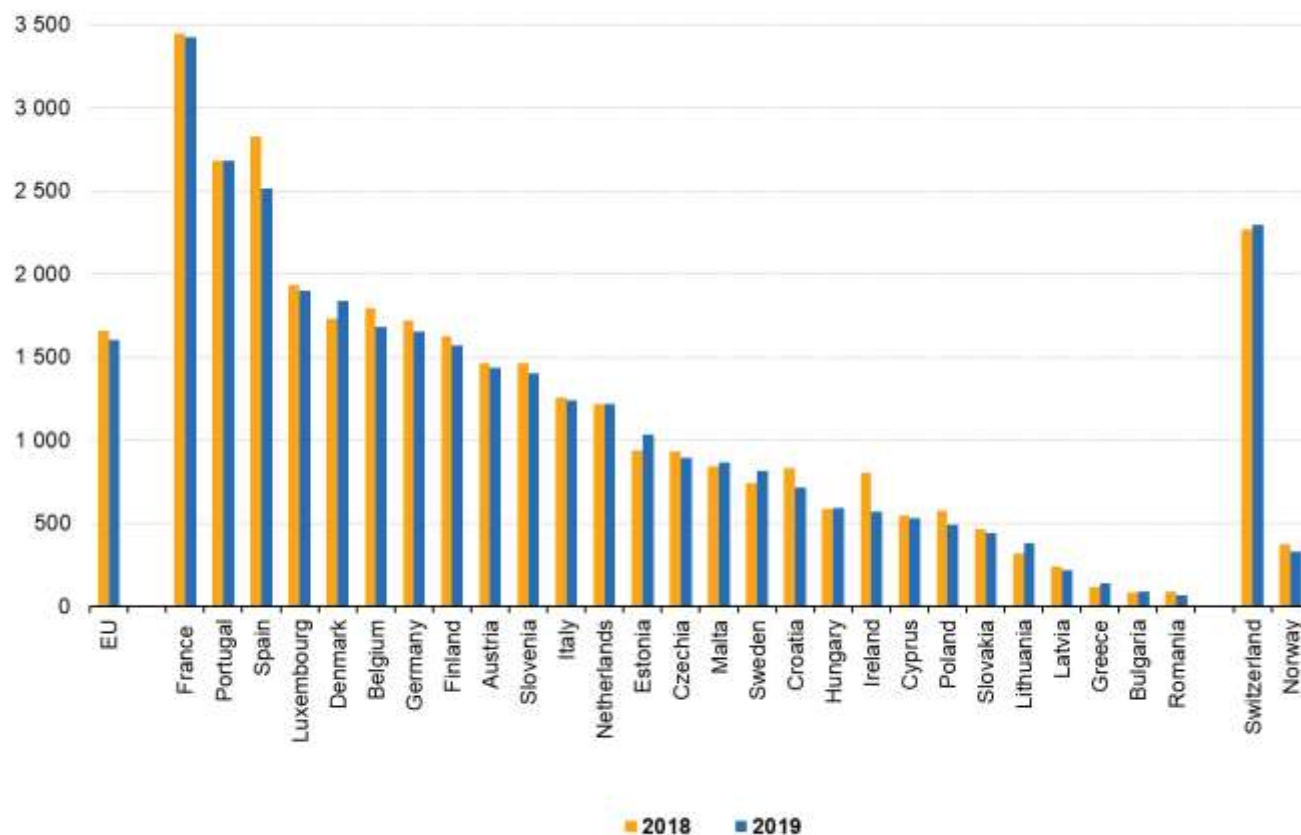
Accidents at work		
Accidents at work statistics		
Figure 1: Fatal accidents at work, 2018 and 2019		
(incidence rates per 100 000 persons employed)		
	2018	2019
EU	1.77	1.74
France	2.74	3.53
Bulgaria	3.14	3.37
Luxembourg	4.22	3.13
Lithuania	3.05	3.01
Romania	4.33	3.00
Croatia	3.04	2.96

Latvia	3.27	2.78
Estonia	1.81	2.51
Austria	2.87	2.49
Cyprus	2.29	2.45
Portugal	2.12	2.12
Italy	2.25	2.10
Hungary	1.97	2.09
Czechia	2.59	2.01
Spain	1.96	1.78
Ireland	1.51	1.77
Slovenia	1.67	1.61
Slovakia	1.83	1.50
Denmark	1.28	1.43
Belgium	1.91	1.27
Malta	1.68	1.18
Finland	0.99	1.13
Poland	1.56	1.10
Greece	0.97	0.92
Germany	0.78	0.79

Sweden	1.01	0.72
Netherlands	0.60	0.48
Switzerland	1.24	1.35
Norway	1.31	1.09
Source: Eurostat (online data code: hsw_n2_02)		

Figure 2: Non-fatal accidents at work, 2018 and 2019 (図 2 : 非致命的な災害)
 (incidence rates per 100 000 persons employed) (被雇用労働者 10 万人当たりの発生率)
 Source: Eurostat ([hsw_n2_01](#)) (資料出所: 欧州統計局)

Non-fatal accidents at work, 2018 and 2019
 (incidence rates per 100 000 persons employed)



Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work.

Source: Eurostat (online data code: hsw_n2_01)

(実際のデータ :

https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fec.europa.eu%2Feurostat%2Fstatistics-explained%2Fimages%2F%2Fe7%2FAccidents_at_work_AAW2022.xlsx&wdOrigin=BROWSELINK)

Accidents at work		
Accidents at work statistics		
Figure 2: Non-fatal accidents at work, 2018 and 2019		
(incidence rates per 100 000 persons employed)		
	2018	2019
EU	1,659	1,603
France	3,445	3,425
Portugal	2,680	2,681
Spain	2,824	2,513
Luxembourg	1,930	1,896
Denmark	1,733	1,837
Belgium	1,790	1,680
Germany	1,722	1,651
Finland	1,624	1,568

Austria	1,464	1,434
Slovenia	1,461	1,401
Italy	1,256	1,238
Netherlands	1,218	1,216
Estonia	937	1,033
Czechia	932	894
Malta	840	864
Sweden	740	814
Croatia	832	714
Hungary	587	592
Ireland	801	571
Cyprus	547	528
Poland	576	487
Slovakia	464	440
Lithuania	316	379
Latvia	236	216
Greece	117	135
Bulgaria	81	86
Romania	85	62

Switzerland	2,267	2,295
Norway	372	327

Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work.

Source: Eurostat (online data code: hsw_n2_01)

Standardised incidence rates	標準化された発生率
<p>When comparing data between countries, incidence rates can be difficult to interpret, for example when comparing the effectiveness of measures to prevent accidents at work. This is because the likelihood of having an accident is, among other factors, related to the economic activity in which a person works, and the relative importance (weight) of different activities varies between countries according to the structure of each domestic economy.</p> <p>To account for this, standardised incidence rates are calculated and data for these are shown in Figures 3 and 4. Such rates assume that the relative sizes of economic activities within each national economy are the same as within the EU as a whole. As such, these standardised incidence rates give a more neutral comparison of the health and safety situation in different countries. Note that these standardised incidence rates have a slightly narrower activity coverage than the simple incidence rates, as they exclude the mining and quarrying sector as well as some service activities. Standardised incidence rates only cover NACE Sections A and C-N, thus excluding Sections B and O-U.</p>	<p>各国間のデータを比較する際に、例えば労働災害防止対策の効果を比較する場合、発生率を解釈することが難しい場合があります。</p> <p>これは、災害に遭う可能性は、特に人が働いている経済活動に関連しており、それぞれの国内経済の構造に応じて、異なる活動の相対的な重要性（重み）が国ごとに異なるためです。</p> <p>これを考慮し、標準化した発生率を算出したものが図 3、4 です。</p> <p>この比率は、各国経済における経済活動の相対的な規模が、EU 全体と同じであると仮定しています。</p> <p>そのため、これらの標準化された発生率は、各国の安全衛生の状況をより中立的に比較することができます。</p> <p>これらの標準化発生率は、鉱業及び採石業や一部のサービス業を除外しているため、単純発生率よりも活動範囲が若干狭くなっていることに注意してください。</p> <p>標準化発生率は NACE セクション A 及び C-N のみを対象としており、セクション B 及び O-U は除外されています。</p>

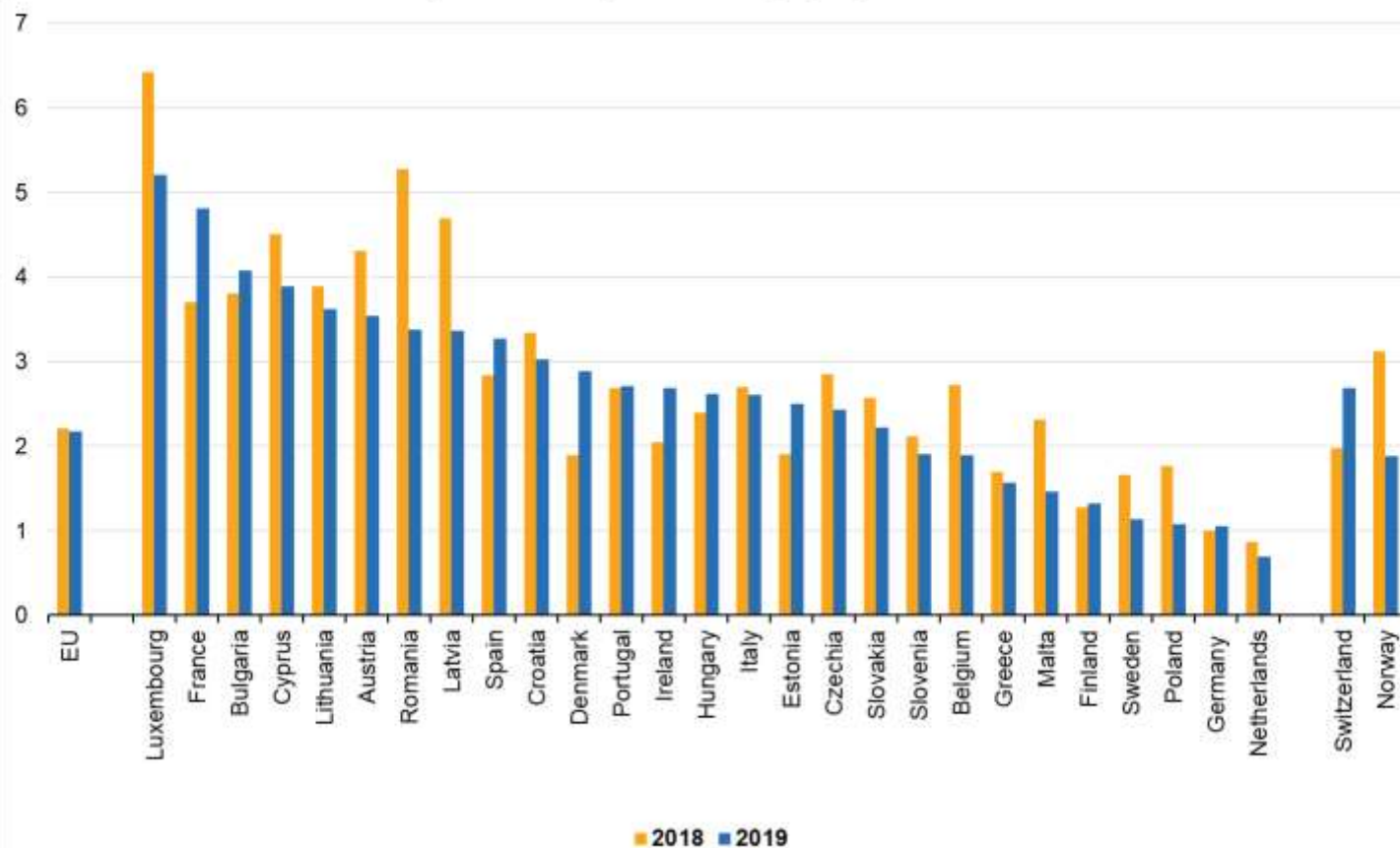
<p>On this basis and across the EU, there were, on average, 2.17 fatal accidents per 100 000 persons employed in 2019 (see Figure 3), while there were 1 713 non-fatal accidents per 100 000 persons employed (see Figure 4). In 2019, the highest standardised incidence of fatal accidents at work was recorded in Luxembourg (5.20 deaths per 100 000 persons employed), followed by France (4.81 deaths per 100 000 persons employed). At the other end of the range, Malta, Finland, Sweden, Poland, Germany and the Netherlands recorded the lowest standardised incidence rates among the EU Member States with fewer than 1.5 fatal accidents per 100 000 persons employed in 2019.</p>	<p>これを基に EU 全体で見ると、2019 年の被雇用者 10 万人当たりの死亡災害は平均 2.17 件（図 3 参照）、非致命的災害は被雇用者 10 万人当たり 1 713 件（図 4 参照）でした。</p> <p>2019 年に、業務上の死亡事故の標準化発生率が最も高かったのはルクセンブルク（被雇用者 10 万人当たり 5.20 人）、次いでフランス（被雇用者 10 万人当たり 4.81 人）でした。一方、マルタ、フィンランド、スウェーデン、ポーランド、ドイツ及びオランダは、2019 年の被雇用者 10 万人当たりの死亡事故が 1.5 人未満で、EU 加盟国の中で最も低い標準化発生率を記録しました。</p>
---	---

Figure 3: Fatal accidents at work, 2018 and 2019 (図 3 : 職場での死亡災害発生率、2018 年及び 2019 年)
(standardised incidence rates per 100 000 persons employed) (被雇用者 10 万人当たりの発生率)

Source: Eurostat ([hsw_mi01](#)) (資料出所 : 欧州統計局)

Fatal accidents at work, 2018 and 2019

(standardised incidence rates per 100 000 persons employed)



Note: NACE Sections A and C-N.

Source: Eurostat (online data code: hsw_mi01)

eurostat

(実際のデータ :

https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fec.europa.eu%2Feurostat%2Fstatistics-explained%2Fimages%2F%2F%7%2FAccidents_at_work_AAW2022.xlsx&wdOrigin=BROWSELINK

Accidents at work		
Accidents at work statistics		
Figure 3: Fatal accidents at work, 2018 and 2019		
(standardised incidence rates per 100 000 persons employed)		
	2018	2019
EU	2.21	2.17
Luxembourg	6.42	5.20
France	3.70	4.81
Bulgaria	3.81	4.07
Cyprus	4.51	3.89
Lithuania	3.89	3.62
Austria	4.31	3.54
Romania	5.27	3.38

Latvia	4.69	3.36
Spain	2.84	3.27
Croatia	3.34	3.03
Denmark	1.89	2.88
Portugal	2.69	2.71
Ireland	2.04	2.69
Hungary	2.39	2.62
Italy	2.70	2.61
Estonia	1.91	2.50
Czechia	2.85	2.43
Slovakia	2.57	2.22
Slovenia	2.12	1.90
Belgium	2.72	1.89
Greece	1.69	1.57
Malta	2.31	1.46
Finland	1.28	1.32
Sweden	1.66	1.14
Poland	1.76	1.08
Germany	1.00	1.05

Netherlands	0.87	0.69
Switzerland	1.98	2.69
Norway	3.12	1.88
Note: NACE Sections A and C-N.		
Source: Eurostat (online data code: hsw_mi01)		

(資料作成者注：欧州標準産業分類改訂第 2 版の業種区分：資料出所：NACE Rev. 2、Statistical classification of economic activities in the European Community の 45 ページ)

	ISIC Rev. 4/ NACE Rev. 2 sections (欧州標準産業分類改訂第 2 版の区分)	Description (説明)	左欄の日本語訳
1	A	Agriculture, forestry and fishing	農業、林業及び漁業
2	B, C, D and E	Manufacturing, mining and quarrying and other industry	製造業、鉱業及び採石業並びに他の産業
2a	C	Of which: manufacturing	そのうちの製造業
3	F	Construction	建設業
4	G, H and I	Wholesale and retail trade, transportation and storage, accommodation and food service activities	卸売り及び小売業、運輸業並びに倉庫業、宿泊及び食品提供業

5	J	Information and communication	情報通信業
6	K	Financial and insurance activities	金融及び保険業
7	L	Real estate activities* * which includes imputed rents of owner-occupied dwellings	不動産業 *所有者が居住し、賃貸している場合を含む。
8	M and N	Professional, scientific, technical, administration and support service activities	専門的、科学的、技術的、管理的及び支援サービス業
9	O, P and Q	Public administration, defence, education, human health and social work activities	公務、防衛、教育、保健及び社会保障業
10	R, S, T and U	Other services	その他のサービス業

Note: NACE Sections A and C-N.	注：欧州標準産業分類の業種 A 及び C から N までの災害を示しています。
--------------------------------	---

Figure 4 shows that in 2019, the standardised incidence rate of non-fatal accidents at work was generally highest in some of the EU Member States with insurance-based accident reporting systems: Spain reported 3 697 non-fatal accidents per 100 000 persons employed, followed by France and Portugal with respective rates of 3 407 and 3 284 per 100 000 persons	図 4 は、2019 年、保険ベースの事故報告システムを持つ EU 加盟国の一部で、労働における非致死の事故の標準化発生率が概して最も高かったことを示しています。スペインは被雇用者 10 万人当たり 3 697 件の非致死の事故を報告し、次いでフランスとポルトガルがそれぞれ被雇用者 10 万人当たり 3 407 件と 3 284 件でした。保険に基づく事故報告制度は、被害者が一般的
--	--

<p>employed. Insurance based accident reporting systems offer a significant financial compensation for the victim when an accident is reported, as opposed to legal obligation systems in which victims are covered by the general social security system. Among the eastern Member States, which mostly have legal obligation systems, Slovenia was the only country to report an incidence rate of more than 1 000 non-fatal accidents per 100 000 persons employed. By far the lowest standardised incidence rates were reported in Bulgaria and Romania, at 83 and 80 non-fatal work accidents respectively per 100 000 persons employed in 2019; again, it should be noted that these values may reflect a relatively high degree of under-reporting.</p>	<p>な社会保障制度でカバーされる法的義務制度とは対照的に、事故が報告された場合に被害者に多額の金銭的補償を提供するものです。</p> <p>ほとんどが法的義務制度を採用している東側加盟国の中で、スロベニアは被雇用者 10 万人当たりの非致死的事故発生率が 1000 件を超えている唯一の国でした。</p> <p>標準化発生率が圧倒的に低いのはブルガリアとルーマニアで、2019 年の被雇用者 10 万人当たりの非致死的事労働災害はそれぞれ 83 件と 80 件と報告されていますが、この値も比較的高い過少報告率を反映している可能性があることに留意する必要があります。</p>
--	--

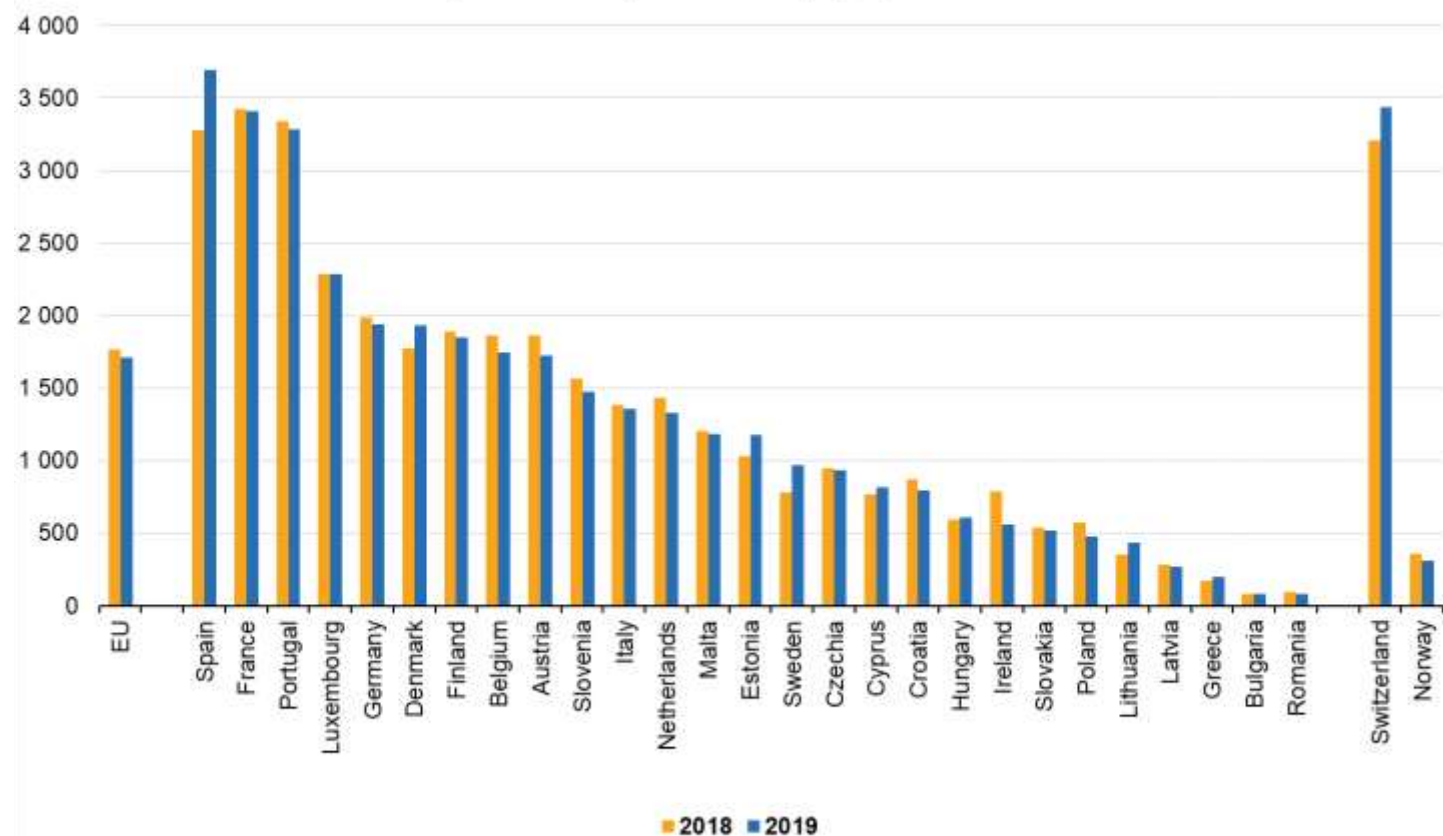
Figure 4: Non-fatal accidents at work, 2018 and 2019 (図 4 : 職場での非致命的災害)

(standardised incidence rates per 100 000 persons employed) (被雇用者雇用者 10 万人当たりの発生率)

Source: Eurostat ([hsw_mi01](#)) (資料出所 : 欧州統計局)

Non-fatal accidents at work, 2018 and 2019

(standardised incidence rates per 100 000 persons employed)



Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work. NACE Sections A and C-N.

Source: Eurostat (online data code: hsw_mi01)

Analysis by activity	活動別の分析
<p>As noted above, one of the main reasons why the incidence of accidents may be higher for men (than for women) is related to the economic activities where they are more likely to work. Indeed, the number of accidents at work varies greatly depending upon the economic activity in question (see Figure 5) and is positively skewed in relation to male-dominated activities.</p> <p>Within the EU, the construction, transportation and storage, manufacturing, and agriculture, forestry and fishing sectors together accounted for around two thirds (64.4 %) of all fatal accidents at work and more than two fifths (43.9 %) of all non-fatal accidents at work in 2019. In 2019, more than one fifth (22.2 %) of all fatal accidents at work in the EU took place within the construction sector, while the transportation and storage sector (15.0 %) had the next highest share; manufacturing (14.8 %) and agriculture, forestry and fishing (12.5 %) were the only other NACE sections for which double-digit shares of the total number of fatal accidents were recorded.</p> <p>Non-fatal accidents were relatively common within manufacturing (18.7 % of the total in the EU in 2019), wholesale and retail trade</p>	<p>前述のように、（女性よりも）男性の方が災害発生率が高いと思われる主な理由の一つは、男性が働きやすい経済活動に関連していることです。実際、労働災害の発生件数は、対象となる経済活動によって大きく異なり（図 5 参照）、男性が多い活動に関連して、正の偏りが見られます。</p> <p>EU 内では、建設業、運輸・倉庫業、製造業、農業・林業・漁業部門を合わせると、2019 年の全仕事中の死亡事故の約 3 分の 2（64.4%）、全非致死事故の 5 分の 2 以上（43.9%）を占めています。</p> <p>2019 年に、EU における全労働死亡事故の 5 分の 1 以上（22.2 %）が建設部門内で発生し、運輸・倉庫部門（15.0 %）が次に高いシェアを占め、製造業（14.8 %）と農業・林業・漁業（12.5 %）は、他の NACE セクションで唯一死亡事故総数の 2 桁のシェアを記録した部門でした。</p> <p>非致命的災害は、製造業（2019 年の EU における全体の 18.7%）、卸売・小売業（12.3%）、建設業（11.8%）、保健業・社会事業活動（11.0%）にお</p>

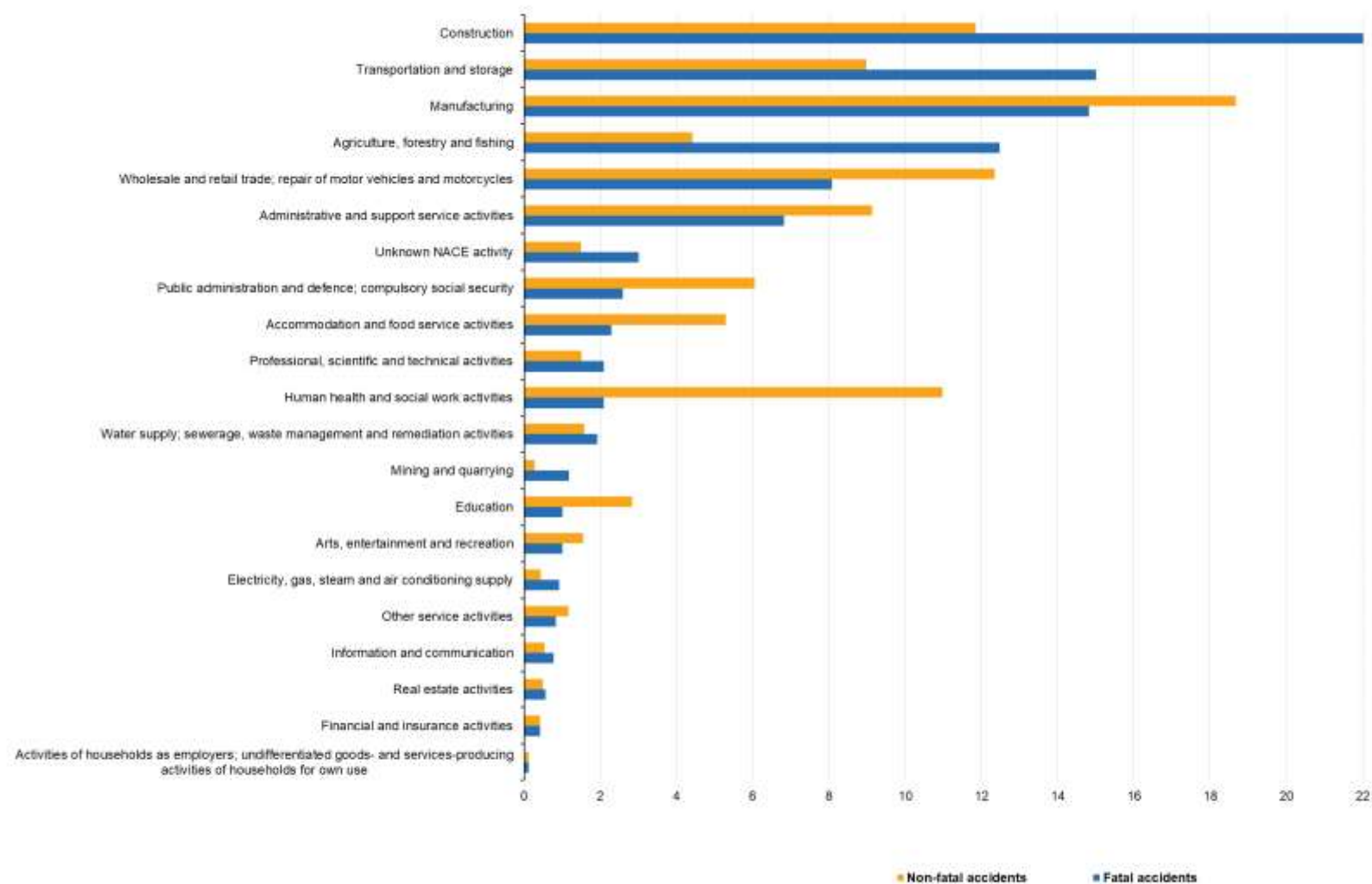
<p>(12.3 %), construction (11.8 %), and human health and social work activities (11.0 %); these were the only NACE sections to record double-digit shares of the total number of non-fatal accidents.</p>	<p>いて比較的多く、これらの NACE セクションは非致死的事故総数のうち 2 桁のシェアを記録した唯一のセクションでした。</p>
---	---

Figure 5: Fatal and non-fatal accidents at work by NACE section, EU 2019 (図 5 : 欧州標準産業分類別の職場での致命的及び非致命的災害)

(% of fatal and non-fatal accidents) (致命的及び非致命的災害割合 (%))

Source: Eurostat (hsw_n2_01) and (hsw_n2_02) (資料出所 : 欧州統計局)

Fatal and non-fatal accidents at work by NACE section, EU, 2019
(% of fatal and non-fatal accidents)



Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work. Ranked on the values for fatal accidents.

Source: Eurostat (online data codes: hsw_n2_01 and hsw_n2_02)

(図 5 の業種分類の英語原文—日本語仮訳)	
英語原文、経済活動分野 (業種)	左欄の日本語仮訳
Construction	建設業
Transportation and storage	運輸及び倉庫業
Manufacturing	製造業
Agriculture, forestry and fishing	農業、林業及び漁業
Wholesale and retail trade	卸売り及び小売業
Administrative and support service activities	管理的及び支援的サービス業
Unknown NACE activities	欧州標準産業分類では知られていない活動
Public administration and defence	公務及び国防
Accommodation and food service activities	宿泊及び食堂業
Professional, scientific and technical activities	専門的、科学的及び技術的サービス業
Human health and social work activities	保健及び社会保障活動
Water supply; sewerage, waste management	水道、下水処理及び廃棄物管理業
Mining and quarrying	鉱業及び採石業
Education	教育
Arts, entertainment and recreation	芸術、娯楽及びレクリエーション業

Electricity, gas, steam and air conditioning supply	電気、ガス、蒸気及び空調供給業
Other service activities	その他のサービス業
Information and communication	情報通信業
Real estate activities	不動産業
Financial and insurance activities	財務及び保険業
Activities of households as employers; undifferentiated goods- and service activities of households for own use	使用者としての家主業；他に分類できない商品及び自家使用の家主活動としてのサービス提供活動

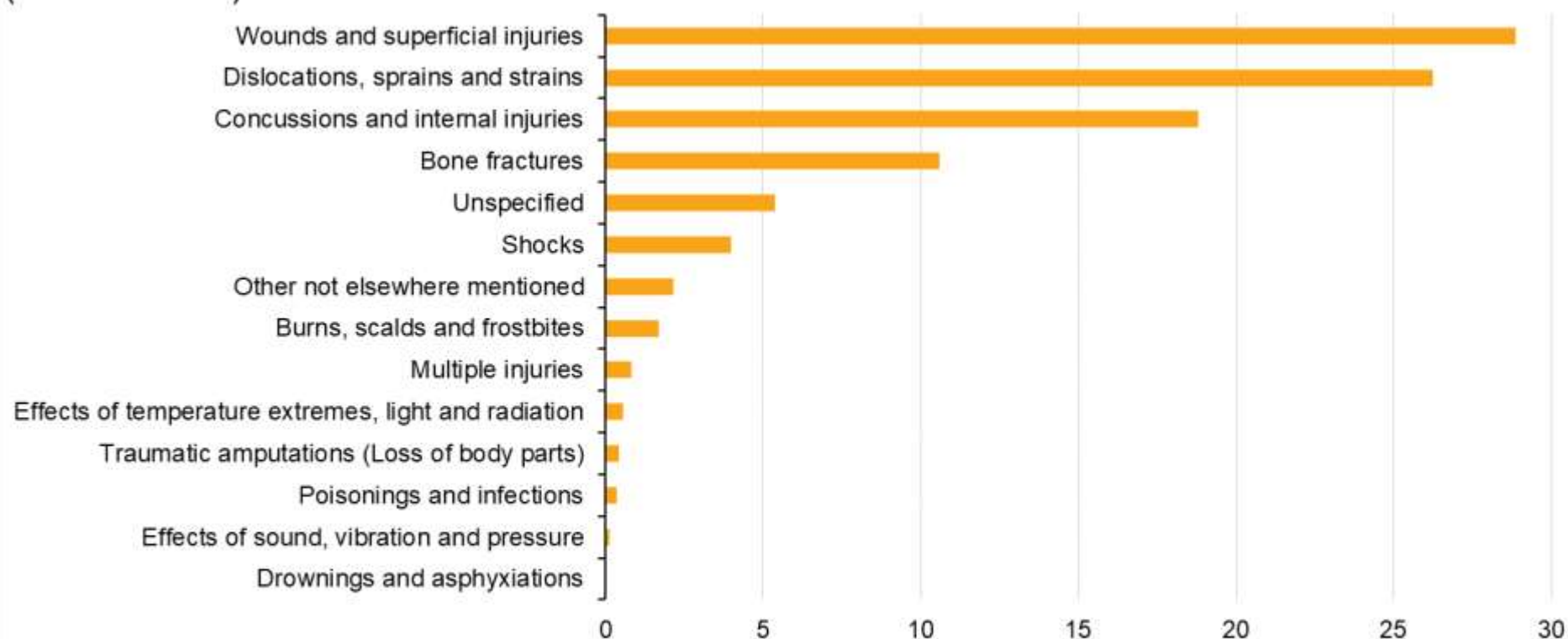
Analysis by type of injury	傷害の型別分析
<p>Figure 6 presents an analysis of data according to the type of injury sustained when people were involved in accidents. In the EU, there were two types of particularly common injury in 2019, namely, wounds and superficial injuries (28.9 % of the total) and dislocations, sprains and strains (26.2 %), followed by two other relatively common types, namely concussion and internal injuries (18.8 %) and bone fractures (10.6 %).</p> <p>None of the other types of injury accounted for a double-digit share of the total number of accidents in the EU, with the next highest shares for shock (4.0 %) and for burns, scalds and frostbite (1.7 %).</p> <p>Note that the data collected in the context of ESAW also include an analysis of which body parts were injured in accidents (such as the head, neck, back, torso and organs, arms and hands, legs and feet) as well as information on the causes and circumstances of accidents.</p>	<p>図 6 は、災害に巻き込まれた際の傷害の種類に応じたデータの分析結果です。EU では、2019 年に特に多かった傷害の種類は、「創傷・表面傷害」（全体の 28.9%）、「脱臼・捻挫・歪み」（26.2%）の 2 種類で、その他に比較的多かったのは、「脳震盪・身体内部の損傷」（18.8%）「骨折」（10.6%）でした。その他の傷害の種類は、EU の事故総数のうち 2 桁のシェアを占めるものではなく、衝撃（4.0 %）と火傷、やけど、凍傷（1.7 %）がそれに次いで高いシェアを持っています。</p> <p>なお、ESAW に関連して収集されたデータには、災害の原因や状況に関する情報だけでなく、災害で体のどの部分（頭、首、背中、胴体や内臓、腕や手、脚や足など）が負傷したかという分析も含まれています。</p>

Figure 6: Fatal and non-fatal accidents at work by type of injury, EU, 2019 (図 6 : EU-28 の傷害の型別の致命的災害及び非致命的災害、2019 年)

(% of accidents) (災害の%)

Source: Eurostat ([hsw_n2_07](#)) (資料出所 : 欧州統計局)

Fatal and non-fatal accidents at work by type of injury, EU, 2019 (% of accidents)



Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work.

Source: Eurostat (online data code: [hsw_n2_07](#))

(資料作成者注：図 6 中の傷害の型についての「英語原文—日本語仮訳」)

type of injury	左欄の傷害の型の日本語訳
Wounds and superficial injuries	身体部の外傷及び上皮の傷害
Dislocations, sprains and strains	脱臼、捻挫及び挫傷
Concussion and internal injuries	震盪症及び内部傷害
Bone fractures	骨折
Unspecified	特定できないもの
Shock	衝撃
Other not elsewhere mentioned	他に明示されていないもの
Burns, scalds and frostbite	火炎による火傷、熱湯による火傷及び凍傷
Multiple injuries	複合的な負傷
Traumatic amputations (loss of body parts)	外傷性の切断（身体の一部の喪失）
Poisoning and infections	中毒及び感染症
Effects of extreme temperatures, light and radiation	極端な温度、光及び放射線の影響
Effects of sound, vibration and pressure	音響、振動及び圧力による影響
Drowning and asphyxiation	溺死及び窒息

Accidents 2010 to 2019	2010 年から 2019 年までの災害
<p>It is also possible to analyse ESAW data over time, with information for all the EU Member States available for the period from 2010 to 2019. Note however that there were some considerable changes in the way that data were collected during this period and as a result there are a number of breaks in series. This is particularly the case for Belgium, Greece, France, Italy, the Netherlands, Finland and Spain - see the ‘Data sources’ section below for more details.</p> <p>Figure 7 presents information at a more detailed activity level, namely for NACE divisions. It shows that between 2010 and 2019 industrial activities accounted for many of the biggest reductions in incidence rates for non-fatal accidents. However, the largest reduction of all was for employment activities where the incidence rate for non-fatal accidents fell by 1 885 accidents per 100 000 persons employed during the period under consideration. There were four more activities where the incidence rate fell by more than 1 000 per 100 000 persons employed: forestry and logging; the manufacture of furniture; mining of metal ores and other mining and quarrying activities.</p>	<p>また、ESAW のデータを時系列で分析することも可能で、2010 年から 2019 年までの全 EU 加盟国の情報を入手することができます。ただし、この期間にデータ収集の方法に大きな変更があり、その結果、シリーズにいくつかの切れ目があることに注意してください。特にベルギー、ギリシャ、フランス、イタリア、オランダ、フィンランド及びスペインがそうです。詳細は以下の「データソース」セクションを参照されたい。</p> <p>図 7 は、より詳細な活動レベル、すなわち NACE 区分の情報を示しています。</p> <p>これによると、2010 年から 2019 年にかけて、非致死的事故の発生率の最大の減少の多くは産業活動が占めていることがわかります。</p> <p>しかし、最も大きく減少したのは雇用活動で、検討期間中に非致死的事故の発生率は被雇用者 10 万人当たり 1,885 件減少しました。</p> <p>さらに、10 万人当たり 1,000 件以上減少した活動は、林業及び伐採、家具製造、金属鉱石の採掘並びにその他の採掘及び採石活動の 4 つでした。</p>

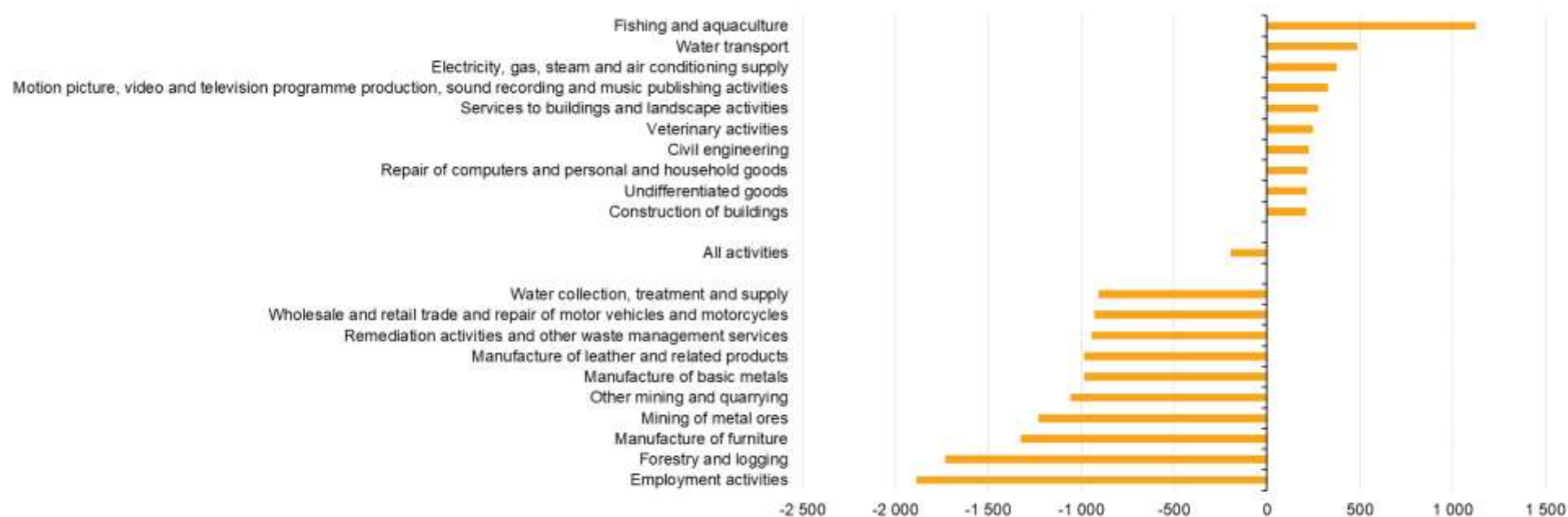
Figure 7: Overall change in the incidence of non-fatal accidents at work by NACE division, EU, 2010-2019（欧州標準産業分類別の職場での非致命的な災害の全体的な変化

(incidence rates per 100 000 persons employed)（被雇用者 10 万人当たりの発生率）

Source: Eurostat ([hsw_n2_01](#))（資料出所：欧州統計局）

Overall change in the incidence of non-fatal accidents at work by NACE division, EU, 2010-2019

(incidence rates per 100 000 persons employed)



Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work. The figure shows the 10 NACE divisions with the highest/lowest absolute changes in their incidence rates between 2010 and 2019.

Source: Eurostat (online data code: [hsw_n2_01](#))

(表 7 の実際の数及び標準産業分類の区分)

標準産業分類の区分の英語原文	左欄の日本語仮訳	被雇用者 10 万人当たりの発生率 (incidence rates per 100 000 persons employed)
Fishing and aquaculture	漁業及び水産業	1,126
Water transport	水運送	488
Electricity, gas, steam and air conditioning supply	電気、ガス、蒸気及び空調供給	376
Motion picture, video and television programme production, sound recording and music publishing activities	映画、ビデオ及びテレビ番組制作、音響録音及び音楽提供活動	328
Services to buildings and landscape activities	建築物へのサービス及び景観活動	279
Veterinary activities	獣医師活動	248
Civil engineering	土木工学	227
Repair of computers and personal and household goods	コンピュータ及び個人・家庭用品の修理	220
Undifferentiated goods	未分化な商品	215
Construction of buildings	建築物の建設	212
All activities	全ての活動	-196

water collection, treatment and supply	水の収集、処理及び供給	-906
Wholesale and retail trade and repair of motor vehicles and motorcycles	卸売業、小売業、自動車・オートバイの修理業	-930
Remediation activities and other waste management services	修復活動及びその他の廃棄物管理サービス	-942
Manufacture of leather and related products	皮革及び関連製品の製造	-983
Manufacture of basic metals	基礎金属製造業	-985
Other mining and quarrying	その他の鉱業及び採石業	-1,056
Mining of metal ores	金属鉱石の採掘	-1,228
Manufacture of furniture	家具製造業	-1,323
Forestry and logging	林業及び伐採	-1,731
Employment activities	雇用活動	-1,885

This section looks at relative changes in the number of accidents and their incidence rates for the period from 2010 to 2019. The number of accidents in a particular year is likely to be related, at least to some extent, to the overall level of economic activity and the total number of persons in employment, with fewer accidents during periods when there was a contraction in overall levels of economic activity.

Figure 8 shows the five NACE sections with the highest risk levels for accidents at work in the EU, namely, agriculture, forestry and fishing (NACE Section A), manufacturing (NACE Section C), construction (NACE Section F), wholesale and retail trade (NACE Section G) and transportation and storage (NACE Section H). Between 2010 and 2019, there was a reduction in the number of fatalities at work in the EU for all five of these activities. Agriculture, construction as well as transportation and storage recorded the smallest reduction in fatalities from accidents at work (in relative terms). By contrast, the largest absolute reduction in fatalities from accidents at work was in the EU's construction sector, where there were 244 fewer in 2019 than there had been in 2010. As such, the number of fatalities in the construction sector declined by 24.4 %, while there was a slightly larger relative reduction in

本節では、2010 年から 2019 年までの災害件数とその発生率の相対的な変化について見ていきます。

特定の年の災害件数は、少なくともある程度、経済活動全体のレベル及び被雇用者総数に関連していると考えられ、経済活動全体のレベルが縮小した時期には事故件数が少なくなります。

図 8 は、EU で労働災害のリスクレベルが最も高い 5 つの NACE セクション、すなわち、農林水産業（NACE セクション A）、製造業（NACE セクション C）、建設業（NACE セクション F）、卸売・小売業（NACE セクション G）、輸送・貯蔵（NACE セクション H）です。

2010 年から 2019 年にかけて、EU ではこれら 5 つの活動すべてにおいて、労働災害死亡者数が減少しています。

農業、建設業及び運輸・倉庫は、労働災害による死亡者数の減少幅が最も小さい（相対的な割合で）。

一方、労働災害による死亡者数が最も絶対的に減少したのは EU の建設部門であり、2019 年の死亡者数は 2010 年に比べて 244 人減少しています。

このように、建設部門の死亡者数は 24.4%減少し、EU の卸売・小売業部門の死亡者数は相対的にやや大きく減少しました（検討期間中 28.6%減）。

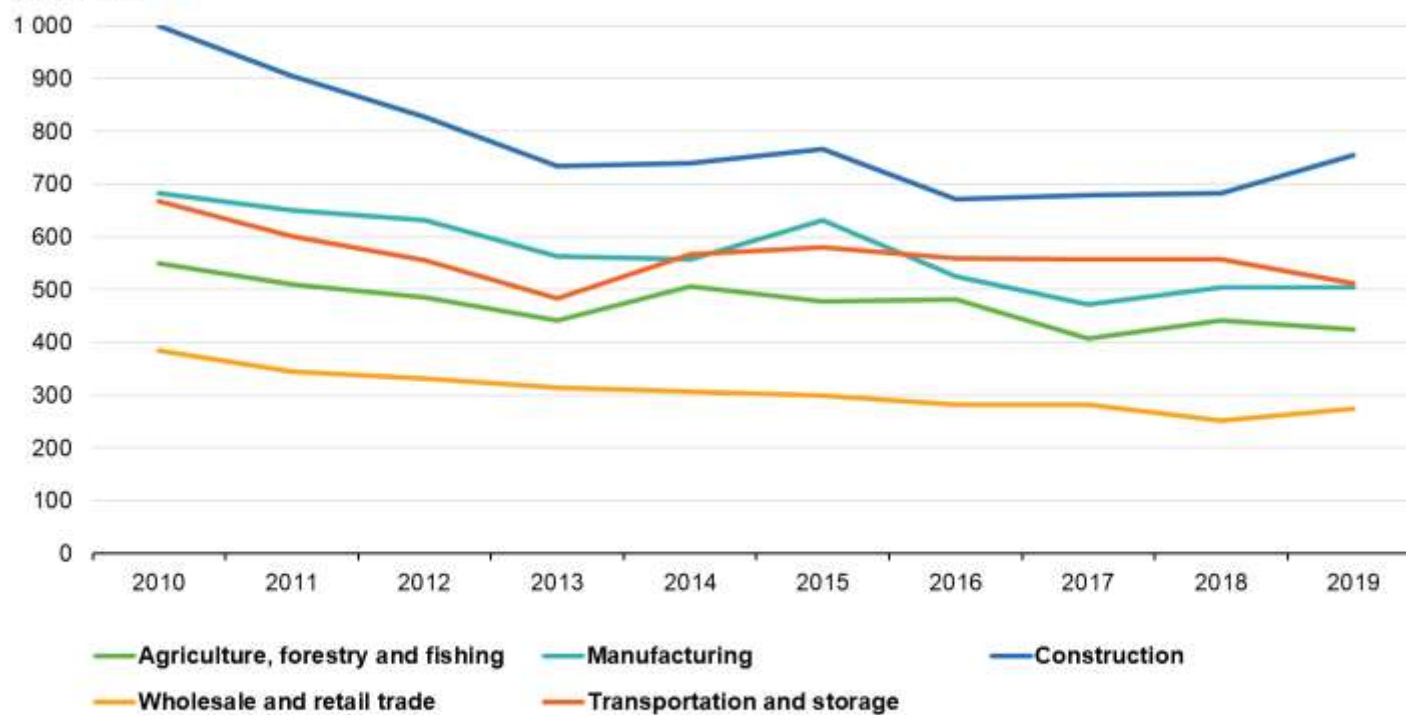
fatalities for the EU's wholesale and retail trade sector (down 28.6 % during the period under consideration).	
--	--

Figure 8: Development of fatal accidents at work for the five NACE sections with the highest risk levels, EU, 2010-2019 (図 8 : 欧州連合における最も高いリスクレベルである 5 つの標準産業分類についての職場での死亡災害の発生)
(persons) (人数)

Source: Eurostat ([hsw_n2_07](#)) (資料出所 : 欧州統計局)

Development of fatal accidents at work for the five NACE sections with the highest risk levels, EU, 2010-2019

(persons)



Source: Eurostat (online data code: [hsw_n2_07](#))

	Figure 8: Development of fatal accidents at work for the five NACE sections with the highest risk levels, EU, 2010-2019 図 8：欧州連合における最も高いリスクレベルである 5 つの標準産業分類についての職場での死亡災害の発生										
	(persons)(人数)										
	暦年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
A	Agriculture, forestry and fishing （農業、林業及び漁業）	549	509	485	442	507	477	481	408	441	425
C	Manufacturing （製造業）	682	651	631	563	558	632	525	472	505	505
F	Construction （建設業）	999	905	826	733	740	767	671	679	682	755
G	Wholesale and retail trade （卸売り及び小売業）	385	344	332	314	306	300	282	283	252	275
H	Transportation and storage （運輸業及び倉庫業）	668	601	556	483	566	580	559	558	557	511
	(1) Estimates, except for agriculture, forestry and fishing and manufacturing.	脚注 1：農林漁業及び製造業を除く推計値									

	(²) Agriculture, forestry and fishing and wholesale and retail trade: low reliability. Manufacturing, construction and transportation and storage: estimates.	脚注 2 : 農業、林業及び水産業並びに運輸及び倉庫業 : 推計値
	(³) Low reliability.	脚注 3 : 信頼性は低い。
	<i>Source:</i> Eurostat (online data code: hsw_n2_07)	資料出所 : 欧州統計局

<p>Figure 9 complements the information shown in Figure 8, presenting a similar analysis for non-fatal accidents. Across the EU, the total number of non-fatal accidents declined for each of the five NACE sections when comparing the levels of accidents at work in 2010 and 2019. The greatest reductions in non-fatal accidents across the EU were recorded for manufacturing (152 000 fewer non-fatal accidents) and construction (down 104 000), with relatively modest falls for agriculture, forestry and fishing (down 19 000) and transportation and storage (down 10 000).</p> <p>Between 2010 and 2019, the number of non-fatal accidents at work in the EU fell by almost one quarter in the construction sector (down 21.9 %), while there were also relatively large falls in the number of non-fatal</p>	<p>図 9 は、図 8 に示した情報を補完し、非致命的災害について同様の分析を示しています。</p> <p>EU 全体で、2010 年と 2019 年の労働災害のレベルを比較すると、5 つの NACE セクションごとに非致命的災害の総件数が減少しています。</p> <p>EU 全体で最も非致命的事故が減少したのは、製造業（152 000 件減少）と建設業（104 000 件減少）で、農林水産業（19 000 件減少）と輸送・貯蔵（10 000 件減少）は比較的小幅な減少に留まりました。</p> <p>2010 年から 2019 年の間に、EU における非致命的な労働災害の件数は、建設業でほぼ 4 分の 1 減少し（21.9%減）、製造業（20.6%減）、卸売・小売業（13.4%減）でも比較的大きな減少がみられました。</p>
---	--

accidents at work for manufacturing (down 20.6 %) and wholesale and retail trade (down 13.4 %).	
---	--

Figure 9: Development of non-fatal accidents at work for the five NACE sections with the highest risk levels, EU, 2010-2019 (図 9 : 欧州連合における最も高いリスクレベルである 5 つの標準産業分類についての職場での被致命的な災害の発生、2020 年から 1019 年まで)

(persons) (人数)

Source: Eurostat ([hsw_n2_07](#)) (資料出所 : 欧州統計局)

(図 9 の実際の数値)

Figure 9: Development of non-fatal accidents at work for the five NACE sections with the highest risk levels, EU, 2010-2019 (図 9 : 欧州連合における最も高いリスクレベルである 5 つの標準産業分類についての職場での非致命的な災害の発生。2010 から 2019 年まで)										
(thousands) (千人)										
暦年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
Agriculture, forestry and fishing (農業、林業及び漁業)	158	159	144	151	169	163	161	148	144	139
Manufacturing (製造業)	739	693	638	613	592	592	601	592	597	586
Construction (建設業)	476	455	396	354	352	347	347	353	363	372
Wholesale and retail trade (卸売り及び小売業)	448	424	388	392	378	380	386	384	377	388

Transportation and storage (運輸業及び倉庫業)	292	269	251	253	240	244	241	273	280	282
<p>Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work.</p> <p>(注：ESAW の枠組みで報告される非致命的（重大）災害とは、少なくとも 4 暦日以上 の欠勤を意味する事故を指します。)</p>										
(¹) Estimates, except for agriculture, forestry and fishing.	脚注 1：農業、林業、漁業を除き、推計値。									
(²) Construction: estimate.	脚注 2：建設業：推計値。									
Source: Eurostat (online data code: hsw_n2_07)	出典 Eurostat (オンラインデータコード: hsw_n2_07)									

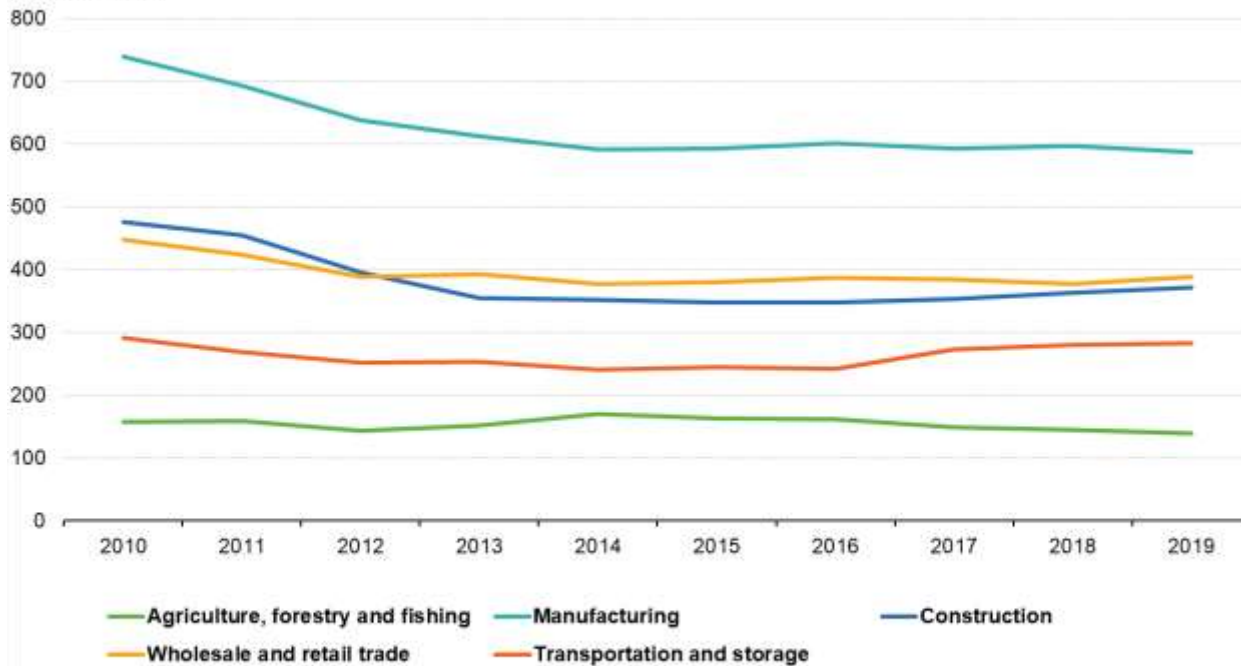
Figure 9: Development of non-fatal accidents at work for the five NACE sections with the highest risk levels, EU, 2010-2019 (図 9 : 欧州連合における最も高いリスクレベルである 5 つの標準産業分類についての職場での被致命的な災害の発生、2020 年から 1019 年まで)

(persons) (人数)

Source: Eurostat ([hsw_n2_07](#)) (資料出所 : 欧州統計局)

Development of non-fatal accidents at work for the five NACE sections with the highest risk levels, EU, 2010-2019

(thousands)



Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work.

Source: Eurostat (online data code: hsw_n2_07)

eurostat 

The final analysis is presented for NACE divisions, detailing those activities with the highest/lowest relative changes in their incidence rates for non-fatal accidents between 2010 and 2019.

最終的な分析は、NACE 部門について提示され、2010 年から 2019 年の間に非致死事故の発生率の相対的变化が最も大きい/最も小さい活動についての詳細が示されています。

<p>Across the EU, the number of non-fatal accidents per 100 000 persons employed fell by 10.9 % across all activities. The largest contractions - more than 50 % overall during the period under consideration (see Figure 10) - were for: computer programming, consultancy and related activities; extraction of crude petroleum and natural gas; manufacture of computer, electronic and optical products; programming and broadcasting activities and information service activities (which recorded the largest decline; down 67.9 %).</p>	<p>EU 全体では、被雇用者 10 万人当たりの非致死的事事件数は、すべての活動において 10.9%減少しました。</p> <p>検討期間中に全体で 50 %を超える最大の縮小を記録したのは（図 10 参照）、コンピュータ・プログラミング、コンサルタント、関連活動、原油・天然ガスの抽出、コンピュータ・電子・光学製品の製造、プログラミング・放送活動及び情報サービス活動（最大の減少を記録；67.9 %減）でした。</p>
<p>The incidence of non-fatal accidents in the EU increased greatly between 2010 and 2019 for: motion picture, video and television programming, sound recording and music publishing (up 50.9 %) and electricity, gas, steam and air conditioning supply (up 50.3 %). The three remaining activities, shown in the right-hand graph in Figure 10, that recorded high increases in the incidence rates were: fishing and aquaculture (up 42.2 %); water transport (up 41.1 %) and other professional, scientific and technical activities (up 24.9 %).</p>	<p>EU における非致死的事事件の発生率は、2010 年から 2019 年にかけて、映画・ビデオ・テレビ番組制作、録音・音楽出版（50.9%増）、電気・ガス・蒸気・空調供給（50.3%増）で大きく上昇しました。</p> <p>図 10 の右側のグラフに示す、発生率が高い増加を記録した残りの 3 つの活動は、：漁業・水産養殖（42.2%増）、水運（41.1%増）、その他の専門・科学・技術活動（24.9%増）でした。</p>

Figure 10: Development of non-fatal accidents at work for the five NACE divisions with the highest and lowest relative changes in incidence rates, EU, 2010-2019（図 10：発生率の相対的变化が最も大きい 5 つの NACE 部門と最も小さい 5 つの NACE 部門における業務上の非致死的事事件の推移（EU、2010 年～2019 年）

(incidence rates per 100 000 persons employed)（被雇用者 10 万人当たりの発生率）

Source Eurostat (hsw_n2_01) (資料出所：欧州統計局)

	Figure 10: Development of non-fatal accidents at work for the five NACE divisions with the highest and lowest relative changes in incidence rates, EU, 2010-2019 (図 10：発生率の相対的変化が最も大きい 5 つ の NACE 部門と最も小さい 5 つの NACE 部門に おける業務上の非致命的災害の推移 (EU、2010 年～2019 年))										
	(incidence rates per 100 000 persons employed) (被雇用者 10 万人当たりの発生率)										
	暦年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
J59	Motion picture, video and television programme production, sound recording and music publishing activities	644	593	562	556	527	479	486	530	944	972
D35	Electricity, gas, steam and air conditioning supply	748	687	484	909	647	590	662	544	522	1,123
A03	Fishing and aquaculture	2,665	2,747	2,422	3,202	4,139	3,943	3,930	3,352	3,344	3,791
H50	Water transport	1,187	1,238	1,039	1,357	1,462	1,266	1,182	1,457	1,490	1,674
M74	Other professional, scientific and technical activities	364.73	609.97	310.55	491.84	391.88	403.99	406.99	544.73	497.76	455.51
		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019

J62	Computer programming, consultancy and related activities	298	187	151	174	106	112	116	161	163	143
B06	Extraction of crude petroleum and natural gas	706	864	407	720	353	291	368	415	364	340
C26	Manufacture of computer, electronic and optical products	1,274	1,341	1,256	1,188	996	956	955	569	559	559
J60	Programming and broadcasting activities	1,096	760	703	601	620	437	427	442	380	366
J63	Information service activities	800	811	885	732	689	860	780	445	286	257
	Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work. The figure shows the five NACE divisions with the highest/lowest relative changes in their incidence rates between 2010 and 2019. Excluding undifferentiated goods- and services-producing activities of private households for own use and activities of extraterritorial organisations and bodies.										
	Source: Eurostat (online data code: hsw_n2_01)										

(資料作成者注：上記の表中の左欄にある「the five NACE divisions」の「英語原文ー日本語仮訳」は、次のとおりです。

Motion picture, video and television programme production, sound recording and music publishing activities	映画、ビデオ、テレビ番組制作 録音、音楽出版
Electricity, gas, steam and air conditioning supply	電気、ガス、蒸気及び空調設備の供給業
Fishing and aquaculture	漁業、水産養殖業
Water transport	水運業
Other professional, scientific and technical activities	その他の専門的、科学的及び技術的活動
Computer programming, consultancy and related activities	コンピュータのプログラミング、コンサルタント及び関連業務

Extraction of crude petroleum and natural gas	石油及び天然ガスの採掘
Manufacture of computer, electronic and optical products	コンピュータ、電子機器及び光学製品の製造
Programming and broadcasting activities	番組制作及び放送事業
Information service activities	情報サービス業

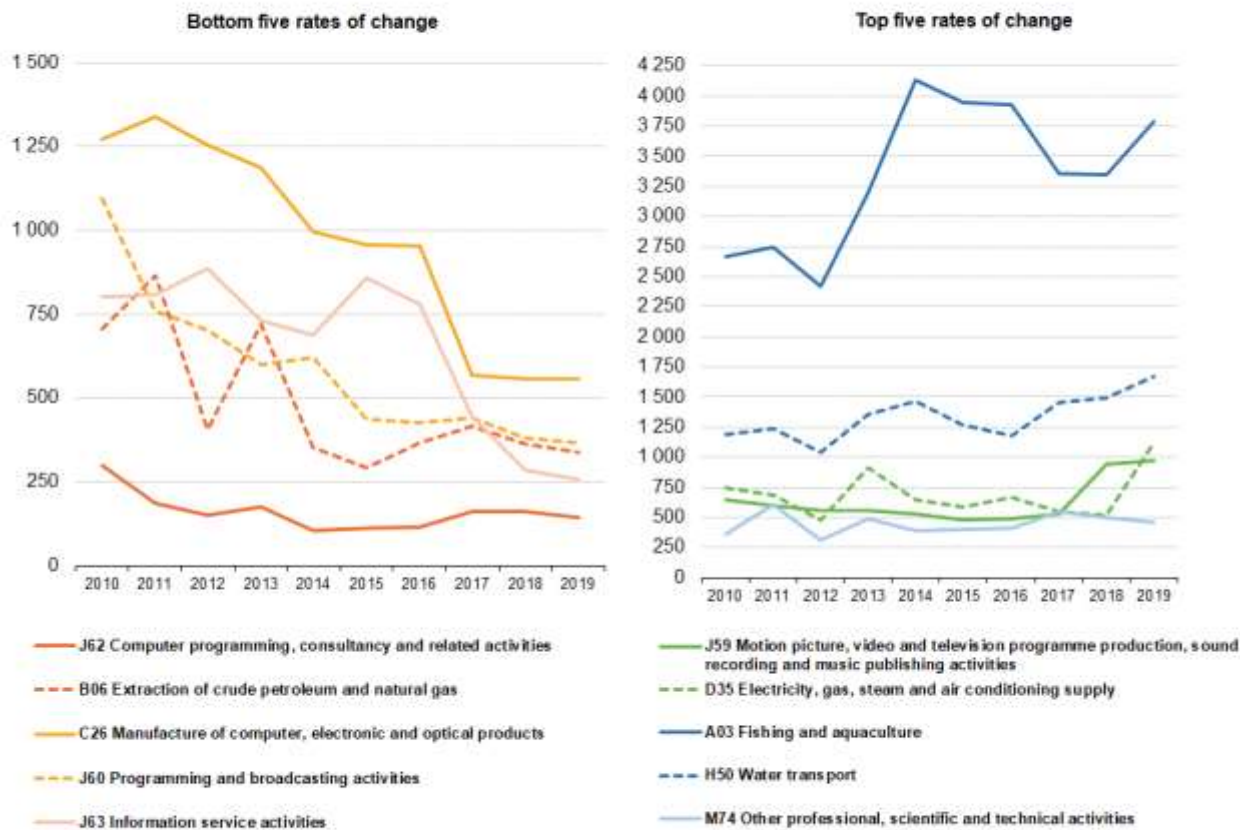
Figure 10: Development of non-fatal accidents at work for the five NACE divisions with the highest and lowest relative changes in incidence rates, EU, 2010-2019（図 10：発生率の相対的变化が最も大きい 5 つの NACE 部門と最も小さい 5 つの NACE 部門における業務上の非致命的災害の推移（EU、2010 年～2019 年）

（incidence rates per 100 000 persons employed）（被雇用者 10 万人当たりの発生率）

Source Eurostat ([hsw_n2_01](#))（資料出所：欧州統計局）

Development of non-fatal accidents at work for the five NACE divisions with the highest and lowest relative changes in incidence rates, EU, 2010-2019

(incidence rates per 100 000 persons employed)



Note: non-fatal (serious) accidents reported in the framework of ESAW are accidents that imply at least four full calendar days of absence from work. The figure shows the five NACE divisions with the highest/lowest relative changes in their incidence rates between 2010 and 2019. Excluding undifferentiated goods- and services-producing activities of private households for own use and activities of extraterritorial organisations and bodies.

Source: Eurostat (online data code: hsw_n2_01)

eurostat

(資料作成者注：上記の図 10 中の次の英語原文の日本語仮訳は、次のとおりです。)

<p>—— J62 Computer programming, consultancy and related activities</p> <p>--- B06 Extraction of crude petroleum and natural gas</p> <p>—— C26 Manufacture of computer, electronic and optical products</p> <p>--- J60 Programming and broadcasting activities</p> <p>—— J63 Information service activities</p>	<p>J62：コンピュータ・プログラミング、相談及び関連活動</p> <p>B06：原油及び天然ガスの採掘</p> <p>C26：コンピュータ、電子及び光学製品</p> <p>J 60：プログラム制作及び放送活動</p> <p>J63：情報サービス活動</p>
<p>—— J59 Motion picture, video and television programme production, sound recording and music publishing activities</p> <p>--- D35 Electricity, gas, steam and air conditioning supply</p> <p>—— A03 Fishing and aquaculture</p> <p>--- H50 Water transport</p> <p>—— M74 Other professional, scientific and technical activities</p>	<p>J59：活動映画、ビデオ及びテレビ番組制作、音響録音並びに音楽出版活動</p> <p>D35：電気、ガス、蒸気及びエアコン供給</p> <p>A03：漁業及び水産活動</p> <p>H50：水運送</p> <p>M74：その他の専門的、科学的及び技術的活動</p>

Data sources	データ源
<p>In December 2008, the European Parliament and the Council adopted Regulation (EC) No 1338/2008 on Community statistics on public health and health and safety at work. The Regulation is designed to ensure that health statistics provide adequate information for all EU Member States to monitor Community actions in the field of public health and health and safety at work. In April 2011, a European Commission Regulation (EU) No 349/2011 on statistics on accidents at work was adopted specifying in detail the variables, breakdowns and metadata that EU Member States are required to deliver; this legislation is being implemented in a number of phases.</p> <p>European statistics on accidents at work (ESAW) is the main data source for EU statistics relating to health and safety at work. ESAW includes data on occupational accidents that result in at least four calendar days of absence from work, including fatal accidents. The phrase ‘during the course of work’ means while engaged in an occupational activity or during the time spent at work. This generally includes cases of road traffic accidents in the course of work but excludes accidents during the journey between home and the workplace.</p>	<p>2008 年 12 月に、欧州議会及び理事会は、公衆衛生及び労働安全衛生に関する共同体統計に関する規則（EC）No 1338/2008 を採択しました。</p> <p>同規則は、公衆衛生及び労働安全衛生の分野における共同体の活動を監視するために、すべての EU 加盟国が保健統計から適切な情報を得られるようにすることを目的としています。2011 年 4 月には、労働災害に関する統計に関する欧州委員会規則（EU）No 349/2011 が採択され、EU 加盟国が提供することが求められる変数、内訳及びメタデータが詳細に規定されました。この法令は、いくつかの段階を経て実施されています。</p> <p>欧州労働災害統計（ESAW）は、労働安全衛生に関する EU 統計の主要なデータソースです。ESAW には、死亡災害を含め、少なくとも 4 暦日以上休業した労働災害に関するデータが含まれています。</p> <p>「業務上」とは、職業活動に従事している間又は職場で過ごしている時間を意味します。</p> <p>一般的には、業務中の交通事故のケースも含まれますが、自宅と職場との間の移動中の災害は除きます。</p>

<p>The statistics presented for accidents at work refer to declarations made either to public (social security administrations) or private insurance schemes, or to other relevant national authorities (for example, those controlling labour or workplace inspections). Indicators on accidents at work may be presented as absolute values, as percentage distributions, as incidence rates in relation to every 100 000 persons employed (the denominator being provided by the authorities in the EU Member States that are responsible for ESAW data collection or by the EU's labour force survey (LFS)) or as standardised incidence rates.</p> <p>The data generally relate to all economic activities, unless otherwise specified. For example, the analyses in Figures 3 and 4 cover NACE Sections A and C to N. Because the frequency of accidents at work varies between NACE activities - high risk activities include: agriculture, forestry and fishing; manufacturing; construction; wholesale and retail trade; and transportation and storage - a standardisation procedure is performed to facilitate the comparison of national data. A direct standardisation method is used with weights calculated for the European reference population: the weights represent the proportion of the reference (working) population in each NACE activity. For each EU Member State the national incidence rates are calculated for each NACE</p>	<p>労働災害に関する統計は、公的（社会保障機関）若しくは民間保険制度又はその他の国内関連当局（例えば、労働又は職場監督を管理する当局）に提出された申告を参照しています。</p> <p>労働災害に関する指標は、絶対値、百分率、被雇用者 10 万人当たりの発生率（分母は ESAW のデータ収集を担当する EU 加盟国当局又は EU の労働力調査（LFS）から提供）、標準化発生率として提示することができます。</p> <p>データは、特に指定がない限り、一般的にすべての経済活動に関連しています。例えば、図 3 及び図 4 の分析は、NACE セクション A 及び C から N までは対象としています。労働災害の発生頻度は NACE の活動によって異なるため（リスクの高い活動は、農林水産業、製造業、建設業、卸売及び小売業、輸送及び倉庫業を含みます。）、各国のデータの比較を容易にするために標準化手順を実施しています。</p> <p>この重みは、各 NACE 活動において参照（労働）人口が占める割合を示しています。</p>
--	---

<p>activity and these are combined using the fixed set of EU weights to produce an overall standardised incidence rate for the Member State concerned. More details are available in a methodological note.</p> <p>Statistics on accidents at work may reflect under-coverage or under-reporting. Under-coverage exists when the appropriate population is not covered by the data source for accidents, for example when a certain economic sector or employment type is excluded. Under-reporting relates to the situation where an accident occurs but is not reported although the related economic sector is included. The extent of under-coverage of ESAW data can be analysed partially by comparing the reference population (of workers) in ESAW with data derived from the LFS. Under-reporting is more difficult to analyse and establish but some comparisons are available. One method is to compare results from the reporting systems used for the legal obligation to report an accident with systems based on insurance reports; this may indicate under-reporting in the system for the legal obligation of accidents or over-reporting in insurance systems. Another method is to compare (geographically or over time) the ratio of fatal to non-fatal accidents, as the reporting of fatal accidents is thought to be more likely to be accurate due to their severe nature. Comparisons can also be made with data from household surveys, for</p>	<p>各 EU 加盟国について、各 NACE 活動に対する国の発生率が計算され、これらは固定された EU の重みを用いて結合され、当該加盟国の全体的な標準化発生率が作成されます。詳細は、方法論ノートでご覧いただけます。</p> <p>労働災害に関する統計は、カバー率や報告不足を反映している場合があります。カバー率が低いとは、災害に関するデータソースが適切な人口をカバーしていない場合であり、例えば、ある経済部門や雇用形態が除外されている場合等です。報告不足は、災害が発生したが、関連する経済部門が含まれているにもかかわらず報告されていない状況に関連しています。</p> <p>ESAW のデータがどの程度カバーされていないかは、ESAW の参照母集団（労働者）と LFS から得たデータとを比較することで部分的に分析することが可能です。過少申告の分析・立証はより困難ですが、いくつかの比較は可能です。1 つの方法は、法的な事故報告義務のために使用される報告システムと保険報告書に基づくシステムの結果とを比較することです。これは、法的な事故報告義務のためのシステムにおける過少報告又は保険システムにおける過大報告を示すかもしれません。もう一つの方法は、死亡災害と非致死災害の比率を（地理的又は時間的に）比較することです。死亡災害はその重大性から、より正確に報告される可能性が高いと考えられています。</p> <p>また、家計調査のデータ、例えば LFS（労働災害と労働関連健康問題について</p>
---	--

<p>example from the LFS (which includes periodic ad hoc modules on accidents at work and work-related health problems).</p> <p>In addition, changes in the way data are collected and processed in the EU Member States may have an influence on the number and incidence of accidents at work in a particular year. For example, on 30 June 2016 a number of derogations from provisions in the EU regulation governing ESAW ended in several of the Member States. This had a significant effect on the data concerning accidents at work for reference year 2014. For example, for the first time French data included full coverage of all employees in economic sectors covered by NACE Sections A-S. This led to a substantial apparent increase in the number of accidents recorded in France (compared with 2013). In a similar vein, the 2014 data for Belgium included information pertaining to accidents in the public sector for the first time and this also resulted in an increase in the reported number of accidents. In 2016, some correction factors were removed from Greek data by the national statistical office due to methodological issues which caused a very considerable reduction in the number of accidents reported for reference year 2014 (compared with 2013); it is expected that a more complete Greek dataset will be received in the coming years, which should lead to a higher number of reported accidents again.</p>	<p>の定期的なアドホック・モジュールを含む。)と比較することも可能です。</p> <p>さらに、EU加盟国におけるデータの収集及び処理方法の変更は、特定の年の労働災害の件数と発生率に影響を与える可能性があります。</p> <p>例えば、2016年6月30日に、いくつかの加盟国でESAWを管理するEU規制の規定からの多くの適用除外が終了しました。</p> <p>これは、基準年2014年の労働災害に関するデータに大きな影響を及ぼしました。例えば、フランスのデータには、初めてNACEセクションA～Sでカバーされる経済部門の全従業員が完全に含まれるようになりました。このため、フランスで記録された事故件数は（2013年と比較して）見かけ上大幅に増加しました。</p> <p>同様に、ベルギーの2014年のデータには、初めて公共部門の事故に係る情報が含まれ、これも事故の報告件数を増加させる結果となりました。2016年、ギリシャのデータから、方法論の問題から国家統計局によっていくつかの補正要因が削除され、その結果、基準年2014年の災害報告件数が（2013年と比較して）非常に大幅に減少しました。今後、より完全なギリシャのデータセットが届き、再び事故報告件数が増加すると予想されます。</p>
--	--

<p>Finally, Dutch and Norwegian data (the latter are not included in the EU total) for the 2014 reference year for non-fatal accidents displayed a significant decrease due to methodological issues. If the Belgian, Greek, French, Dutch and Finnish data were to be removed from the EU total, the development in the total number of accidents between 2013 and 2014 would be almost unchanged (a small decrease, down 1.3 %).</p> <p>Context</p> <p>A safe, healthy working environment is a crucial factor in an individual's quality of life and is also a collective concern. Governments in the EU Member States recognise the social and economic benefits of better health and safety at work. Reliable, comparable, up-to-date statistical information is vital for setting policy objectives and adopting suitable policy measures and preventative actions.</p> <p>The Treaty on the Functioning of the European Union (Article 153) states that '[...] the Union shall support and complement the activities of the Member States in the following fields: (a) improvement in particular of the working environment to protect workers' health and safety; [...]']'.</p>	<p>最後に、オランダ及びノルウェーのデータ（後者は EU の合計に含まれません。）は、2014 年の非致命的災害について、方法論の問題から大幅な減少を示しています。ベルギー、ギリシャ、フランス、オランダ及びフィンランドのデータを EU 合計から除外すると、2013 年から 2014 年の事故総数の推移はほぼ横ばい（1.3%減の微減）となります。</p> <p>文脈</p> <p>安全で健康的な労働環境は、個人の生活の質にとって重要な要素であり、また、集団的な関心事でもあります。</p> <p>EU 加盟国の政府は、労働安全衛生の向上が社会的及び経済的利益につながることを認識しています。</p> <p>信頼性が高く、比較可能な最新の統計情報は、政策目標を設定し、適切な政策措置や予防措置を採用するために不可欠です。</p> <p>欧州連合機能条約（第 153 条）は、「...連合は、次の分野における加盟国の活動を支援し、補完するものとする：（a）特に労働者の健康と安全を守るための労働環境の改善（...）」と定めています。</p>
--	---

<p>The main principles governing the protection of workers' health and safety are laid down in a 1989 framework Directive (89/391/EEC), the basic objective of which is to encourage improvements in occupational health and safety. All sectors of activity, both public and private, are covered by this legislation, which establishes the principle that the employer has a duty to ensure workers' health and safety in all aspects relating to work, while the worker has an obligation to follow the employer's health and safety instructions and report potential dangers.</p> <p>Within this field, the European Commission's policy agenda for the period 2021-2027 was set out in the Communication EU strategic framework on health and safety at work for 2021-2027 (COM(2021) 323 final), which outlined three major challenges: anticipating and managing change in the new world of work brought about by the green, digital and demographic transitions; improving prevention of workplace accidents and illnesses; increasing preparedness for any potential future health crises. This framework is designed to ensure that the EU continues to play a leading role in the promotion of high standards for working conditions within Europe (as well as wider afield).</p>	<p>労働者の健康と及び安全の保護を規定する主要原則は、1989 年の枠組み指令（89/391/EEC）で規定されており、その基本目的は労働安全衛生の改善を奨励することです。</p> <p>公共及び民間を問わず、すべての活動部門がこの法律の対象となり、使用者は仕事に関わるすべての面で労働者の健康及び安全を確保する義務があり、労働者は使用者の安全衛生に関する指示に従い、潜在的な危険を報告する義務があるという原則が確立されています。</p> <p>この分野では、2021 年から 2027 年にかけての欧州委員会の政策課題が、コミュニケーション「2021 年から 2027 年の職場の安全衛生に関する EU 戦略的枠組み」（COM（2021）323 final）で示され、グリーン、デジタル及び人口の移行がもたらす新しい仕事の世界における変化の予測及び管理、職場での事故及び病気の予防改善、将来起こり得る健康危機への備えの強化、という 3 つの大きな課題が提示されています。</p> <p>この枠組みは、EU が欧州内（及びより広い地域）で高水準の労働条件を推進する上で、引き続き主導的な役割を果たすことを保証するために策定されたものです。</p>
--	--

<p>At the time of writing, the COVID-19 pandemic highlighted the crucial importance of health policy, including health and safety at work. The European Commission is working towards providing strategic policy orientations that will contribute to the improvement of the health and safety of workers across Europe. This is particularly important with respect to a new set of risks, such as those resulting from new ways of working, new technologies and digitalisation, or the impact of the COVID-19 pandemic and associated containment measures, alongside more traditional concerns, such as exposure to dangerous substances and the risk of accidents at work.</p>	<p>本稿執筆時点では、COVID-19 の大流行により、職場における安全衛生を含む健康政策の重要性が浮き彫りになっています。</p> <p>欧州委員会は、欧州全域の労働者の健康と安全の向上に寄与する戦略的な政策の方向付けを行うべく取り組んでいます。</p> <p>これは、危険物質へのばく露労働災害のリスクといった従来からの関心事に加え、新しい働き方、新技術、デジタル化又は COVID-19 の大流行とそれに伴う封じ込め対策の影響のような一連の新しいリスクに関して特に重要です。</p>
---	---

IV—3—2 Eurostat（欧州統計局）による最新の非致命的な（休業４暦日以上の）労働災害統計について

Eurostat（欧州統計局）は、定期的にその該当するデータベース上で、EU加盟27か国（2021年1月末に英国がEUを離脱したので、現在では加盟27か国）を中心として非致命的な（休業４暦日以上の）労働災害統計を公表しています。この資料はこのEUのデータベースを駆使して、次のとおり統計資料を纏めたものです。

[Non-fatal accidents at work by NACE Rev. 2 activity and sex](欧州標準産業分類改訂第２版による業種別の職場における非致命的な災害。休業４暦日以上)

[Last update]: 20.01.22(最終更新日：2022年1月20日)

[Source of data: Eurostat](資料出所：欧州統計局)

[UNIT: Number]（単位：人数）

[NACE_R2: Total - all NACE activities](欧州標準産業分類改訂第２版による全業種合計)

[SEX: Total](男女計)

GEO	TIME				
	2015	2016	2017	2018	2019
European Union - 27 countries (from 2020) (2020年1月31日の英国のEU離脱後の27か国の合計。以下同じ。)	3,030,077	3,112,736	3,116,691	3,124,828	3,140,950
European Union - 28 countries (2013-2020) (2020年1月31日の英国のEU離脱後ではあるが、英国を含む28か国の合計。以下同じ。)	3,267,085	3,339,900	3,342,349	3,345,812	:

Belgium	63,863	70,674	70,895	72,059	68,741
Bulgaria	2,290	2,188	2,230	2,255	2,162
Czechia	42,629	45,282	45,009	44,241	42,321
Denmark	50,282	49,439	48,842	50,185	50,179
Germany (until 1990 former territory of the FRG)	899,670	917,851	878,525	877,501	867,533
Estonia	6,296	6,354	6,279	6,230	6,180
Ireland	16,681	14,088	22,125	18,090	13,252
Greece	3,749	3,987	4,223	4,493	5,127
Spain	413,756	432,052	453,437	465,227	489,643 (b)
France	731,120	749,670	753,156 (b)	771,837	778,820
Croatia	13,145	13,263	14,164	12,047	10,373
Italy	295,162	295,967	294,161	291,503	289,283
Cyprus	1,592	1,900	2,068	2,147	2,158
Latvia	1,709	1,810	1,895	2,168	2,245

Lithuania	3,287	3,541	3,977	3,834	4,666
Luxembourg	7,359	7,152	6,684	7,315	7,270
Hungary	20,846	27,434	25,470	23,510	23,802
Malta	2,289	1,818	1,846	2,001	2,202
Netherlands	72,829	81,165	93,305	91,179	92,838
Austria	61,227	62,902	61,868	63,229	60,909
Poland	81,880	84,037	84,388	77,949	81,302
Portugal	134,378	135,033	135,488	130,434	131,717
Romania	3,913	4,188	4,491	4,623	4,709
Slovenia	12,448	12,162	13,288	13,126	13,065
Slovakia	9,247	9,814	10,091	10,145	9,666
Finland	42,069	41,106	42,025	41,038	40,103
Sweden	36,362	37,858	36,761	36,457	40,684
Iceland	:	:	:	:	:
Norway	10,785	10,150	10,004	10,525	9,943

Switzerland	85,655	87,386	89,224	92,890	95,254
United Kingdom	237,008	227,165	225,658	220,985	:
TIME	2015	2016	2017	2018	2019
GEO					

Available flags:

b break in time series

c confidential

d definition differs, see metadata

e estimated

f forecast

n not significant

p provisional

r revised

s Eurostat estimate

u low reliability

z not applicable

Special value:

: not available

UNIT: Incidence rate(単位：発生率。労働者 10 万人当たりの件数（人数）)

NACE_R2: Total - all NACE activities

SEX: Total

GEO	TIME	2015	2016	2017	2018	2019
European Union - 27 countries (from 2020) (2020 年 1 月 31 日の英国の EU 離脱後の 27 か国の合計。以下同じ。)		1,668.02	1,718.32	1,703.77	1,659.09	1,603.13
European Union - 28 countries (2013-2020) (2020 年 1 月 31 日の英国の EU 離脱後ではあるが、英国を含む 28 か国の合計。以下同じ。)		1,535.09	1,570.84	1,556.86	1,518.78	:
Belgium		1,403.08	1,990.4	2,015.6	1,789.5	1,679.77
Bulgaria		86.12	81.11	81.51	81.28	85.59
Czechia		890.14	885.75	862.15	932.01	893.69
Denmark		1,827.08	1,782.44	1,608.2	1,732.93	1,836.86
Germany (until 1990 former territory of the FRG)		1,930.57	1,950.91	1,819.55	1,721.56	1,650.78
Estonia		1,083.74	1,088.26	953.39	937.12	1,032.85
Ireland		855.85	702.61	1,008.38	801.34	570.59
Greece		159.63	155.44	161.09	117.37	135.36

Spain	2,767.5	2,807.18	2,842.41	2,823.92	2,513.23 (b)
France	3,160.29	3,458.28	3,395.93 (b)	3,444.79	3,425.11
Croatia	948.55	954.18	1,006.85	832.12	714.35
Italy	1,313.89	1,300.51	1,277.69	1,255.67	1,238.38
Cyprus	514.53	531.24	553.94	547.47	528.41
Latvia	218.33	201.16	207.06	236.47	215.55
Lithuania	280.67	296.7	333.6	315.73	379.49
Luxembourg	1,865.72	2,055.41	1,833.22	1,929.55	1,896.02
Hungary	554.65	706.9	640.44	587.18	591.57
Malta	1,231.31	947.48	837.45	839.61	864.4
Netherlands	1,032.3	1,134	1,284.13	1,217.93	1,216.39
Austria	1,475.96	1,678.71	1,630.08	1,463.97	1,433.65
Poland	509.08	532.04	625.19	575.79	487.29
Portugal	2,954.23	2,932.15	2,848.41	2,680.15	2,680.94
Romania	77.38	80.17	83.6	85.2	62.29

Slovenia	1,511.55	1,431.14	1,534.73	1,460.6	1,401.35
Slovakia	449.73	465.04	470.41	463.74	440.39
Finland	1,726.39	1,676.29	1,699	1,624.08	1,568.29
Sweden	777.19	791.21	753.28	739.97	814.14
Iceland	:	:	:	:	:
Norway	397.74	373.85	361.36	372.49	326.94
Switzerland	2,160.39	2,178.75	2,200.53	2,267.3	2,294.75
United Kingdom	760.37	721.87	710.6	691.65	:
TIME GEO	2015	2016	2017	2018	2019
Available flags: b break in time series c confidential d definition differs, see metadata e estimated f forecast n not significant p provisional r revised s Eurostat estimate u low reliability z not applicable			Special value: : not available		